

■ 水上交通の現状と課題

1 水上交通事業者アンケート調査

(1) 調査概要

水上交通事業者を対象に、現状の収支状況や近年の行政等からの支援状況、取り組み状況を把握するために、アンケート調査を実施した。調査概要を表 1.1 に示す。

表 1.1 調査概要

項目	詳細
目的	○現存する航路の存続・改善に向けてあるべき方向性と課題を抽出するために、以下の３項目について調査する。 ・収支状況 ・行政等からの支援状況 ・航路維持や利用促進に向けた取り組みの実施状況
実施日	メール：10/30 に送信、11/9 に回収 郵送：10/29 に郵送、11/9 に回収
配布・回収方法	担当窓口への電子メールによるアンケート配布・回収 ※メールができない場合は、郵送にて対応
対象事業者数・対象航路数	64 社（定期：51 航路、不定期：61 航路） メール対応：27 社、郵送対応：37 社 <抽出条件> ・定期は全事業者 ・不定期－遊覧は全事業者 貸切は年間 5 0 0 人以上 通船は 〃
調査票の形式	・メール対応：MS-Word 形式の電子ファイル調査票を送付し、パソコン上で直接入力してもらう。 ・郵送・FAX 対応：調査票を紙ベースで送付し、記入してもらう。 ※ただし、窓口担当者の要望に応じて柔軟に対応する。
備考	・昨年度の離島航路の調査票のうち、必要項目のみ抽出し作成する。 ・調査票は、収支状況を記入しやすくするため、観光船と観光船以外のものと 2 種類作成する。 ・必要時に応じてメール・電話等のリマインダーを実施する。

(2) アンケート調査票の設計

アンケート調査票を作成するにあたり、以下の項目を設けることとした。作成した調査票を次ページ以降に示す。

表 1.2 アンケート項目

設問項目	設問番号
水上交通事業者の概要 (会社名、連絡先)	問 1
航路別の輸送実績及び収支状況 (正規運賃、割引旅客運賃、収支状況)	問 2
調査対象航路の支援状況 (補助機関、費用、補助の種類)	問 3
航路維持や利用促進に向けた取組の実施状況 (取組の実施状況、取組に至る背景、取組の内容)	問 4
現在の状況 (その他の問題、国及び地方自治体に対する要望)	問 5
その他自由意見	問 6

**近畿圏における水上交通の現状と課題把握に関する調査
アンケート調査票（生活航路・フェリー）**

国土交通省 近畿運輸局海事振興部旅客課
神戸運輸監理部総務企画部企画課

○アンケートの目的

現在、わが国では、少子高齢化や人口減少、地球温暖化問題への対応、情報技術の飛躍的進展等、社会経済の大きな転換期を迎え、また新たな課題が生じている状況にあります。

本アンケートは、水上交通の現状と課題を把握するために、現在の近畿圏における水上交通に関する幅広いデータの収集・整理・分析と水上交通に関する幅広い取組事例を収集し、地域の特性にあった効果的・効率的な水上交通のあり方の整理・分析を行うために実施するものです。

○アンケートの締め切りについて

本アンケート調査票にご回答いただき、**11月9日(金)までに事務局までご返送下さい。**事務局で内容を確認させて頂いた後、必要に応じて直接のヒアリングを行うことがあります。お忙しい中とは存じますが、ご協力下さいます様、お願い申し上げます。

○調査会社（アンケート調査票返送先）

〒530-0003 大阪市北区堂島1丁目-5-17 堂島グランドビル2階
株式会社地域未来研究所 担当：義浦、倉嶋、小野田
tel. 06-4796-8502 fax. 06-4796-8509
E-mail yoshiura@refrec.jp

※調査票に記入された内容は、この目的以外には使用いたしません。また、企業名の公開や会社の不利益になるような企業情報の開示は行いません。

問1. はじめに御社名、ご担当者名、ご連絡先についてご記入ください。

御社名		
	ご担当者様	
住所		
連絡先	電話	F A X
	Eメール	

図 1.1 アンケート調査票：生活航路・フェリー(1)

問2. 御社が運航する航路の運賃及び収支状況について、平成21年度～23年度の3箇年分を空欄部分のみご記入ください。 ※1航路1枚とし、適宜コピーしてください。

*②の割引運賃については一般の大人（個人）に適用される割引旅客運賃をご記入ください。

*各項目の数値などが記載されているデータや資料がございましたら、お手数ですが別途資料添付、送付でも結構です。別途資料に記載されている項目は記入いただかなくても結構です。

航路名					
年度			平成21年度	平成22年度	平成23年度
①正規運賃	旅客	片道(大人)	円/人	円/人	円/人
	車両	片道(4m未満)	円/台	円/台	円/台
②割引運賃 (個人のみ)	旅客	往復割引(往復)	円/人	円/人	円/人
		島発割引	円/人	円/人	円/人
③収支状況	総収入				
		うち旅客収入			
		うち自動車航送収入			
		うち貨物収入			
		うち営業収入			
		その他			
	総費用				
		うち燃料費			
		うち船員費			
		うち修繕費			
		うち船舶減価償却費			
		うち船舶の用船料			
		うち航路付属施設費			
		うち一般管理費			
		その他			
損益計					

問3. 御社の船員（航路運航に直接従事される方）の平均年齢は何歳ですか。

歳

図 1.2 アンケート調査票:生活航路・フェリー(2)

問4. 御社の国・都道府県または市町村からの支援（補助金）状況について、航路毎に平成21年度～23年度の3箇年分をご記入ください。

また、支援（補助金）の多少に関わらず、ご記入ください。

*（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構との船舶共有建造は除きます。

*現在使用されている船舶の購入等で補助金を受けた場合は、補助の概要がわかる資料を添付してください。

対象航路	支援者	平成21年度	平成22年度	平成23年度	補助の種類
	国	千円	千円	千円	
	都道府県	千円	千円	千円	
	市町村	千円	千円	千円	
	国	千円	千円	千円	
	都道府県	千円	千円	千円	
	市町村	千円	千円	千円	
	国	千円	千円	千円	
	都道府県	千円	千円	千円	
	市町村	千円	千円	千円	
	国	千円	千円	千円	
	都道府県	千円	千円	千円	
	市町村	千円	千円	千円	

問5. 御社の運航する航路維持における経営面での課題に対しての御社の取組状況についてお伺いします。

運航する航路維持における経営面での課題への対策として、取組を実施しましたか。

1. 取り組んだ	⇒問5-2（次のページ）へ
2. 現在取り組んでいる	
3. 取り組む予定	
4. 取り組みたいができない	⇒問5-1へ
5. 取り組み予定なし	

問5-1. 問5で4または5と答えた方にお伺いします。

これまで取組を実施していない、またはできない理由はなんですか。

1. 費用面	2. 人手不足
3. 効果が期待できない	4. 方法・やり方がわからない
5. 特に問題・課題がない	6. その他（ ）

⇒問6へお進み下さい。

図 1.3 アンケート調査票：生活航路・フェリー(3)

問5-2. 問5で1・2・3と答えた方にお伺いします。

以下の項目について教えてください。

※取組を実施した航路について1航路1枚とし、適宜コピーしてください。

※具体的な取組内容等で参考資料がございましたら、添付をお願いします。

対象航路		
取組名		
課題		1. コスト削減（運航面・管理面） 2. 航路の利用促進（旅客・貨物） 3. その他（ ）
取組に至る背景	詳細分類	1. 社会情勢の変化（定住人口の減少、少子高齢化、景気の低迷 等） 2. 交通環境の変化（競合交通機関の新設、高速道路施策の実施 等） 3. その他（ ）
	背景詳細	例）離島の常住人口が減少した、高速道路の料金割引が大きい など
取組の内容	詳細分類 （問5で3と回答された方は、 予定している内容を記述してください）	1. 航路再編・ルート見直し 2. ダイヤ変更 3. 現在の利用者へのサービス向上（情報提供・PRの工夫、乗継改善） 4. 新たな利用の促進（観光客誘致の工夫、貨物輸送増加の工夫） 5. コスト削減 6. 運賃割引（地域住民、その他） 7. 水上交通事業者に代わり地方公共団体が船舶の代替建造を行い所有 8. 地方公共団体が船舶の買収を行い所有する 9. 水上交通事業者が効率化船舶への代替建造を行う 10. 「海上交通低炭素化促進事業」、「海上交通バリアフリー化施設整備助成事業」等の活用事例 11. その他（ ）
	取組の詳細	例）1日の運航回数を○便から○便へ増加。運賃等を○円から○円に値下げ など
	実施までの 問題点・苦労点	
	取組の評価	1. 大きな効果あり 2. 少し効果あり 3. あまり効果なし 4. ほとんど効果なし 5. まだわからない
	今後の方針	

図 1.4 アンケート調査票：生活航路・フェリー(4)

問6. 現在の状況についてお伺いします。

問6-1. 前述の運航する航路維持における経営面での課題以外で現在、悩んでいることが有りますか。

例) 船員確保維持、安全管理体制維持 など

問6-2. 国や自治体に対して提案や要望はありますか。

例) 補助対象の範囲、補助申請の手続き、ターミナルの整備、アクセス道路の充実 など

問7. その他に何かございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

図 1.5 アンケート調査票:生活航路・フェリー(5)

**近畿圏における水上交通の現状と課題把握に関する調査
アンケート調査票（観光を主とした航路）**

国土交通省 近畿運輸局海事振興部旅客課
神戸運輸監理部総務企画部企画課

○アンケートの目的

現在、わが国では、少子高齢化や人口減少、地球温暖化問題への対応、情報技術の飛躍的進展等、社会経済の大きな転換期を迎え、また新たな課題が生じている状況にあります。

本アンケートは、水上交通の現状と課題を把握するために、現在の近畿圏における水上交通に関する幅広いデータの収集・整理・分析と水上交通に関する幅広い取組事例を収集し、地域の特性にあった効果的・効率的な水上交通のあり方の整理・分析を行うために実施するものです。

○アンケートの締め切りについて

本アンケート調査票にご回答いただき、**11月9日(金)まで**に事務局までご返送下さい。事務局で内容を確認させて頂いた後、必要に応じて直接のヒアリングを行うことがあります。お忙しい中とは存じますが、ご協力下さいます様、お願い申し上げます。

○調査会社（アンケート調査票返送先）

〒530-0003 大阪市北区堂島1丁目-5-17 堂島グランドビル2階
株式会社地域未来研究所 担当：義浦、倉嶋、小野田
tel. 06-4796-8502 fax. 06-4796-8509
E-mail yoshiura@refrec.jp

※調査票に記入された内容は、この目的以外には使用いたしません。また、企業名の公開や会社の不利益になるような企業情報の開示は行いません。

問1. はじめに御社名、ご担当者名、ご連絡先についてご記入ください。

御社名		
	ご担当者様	
住所		
連絡先	電話	F A X
	Eメール	

図 1.6 アンケート調査票：観光を主とした航路(1)

問2. 御社が運航する観光船の観光船全体の収支状況について、平成21年度～23年度の3箇年分を空欄部分のみご記入ください。

*各項目の数値などが記載されているデータや資料がございましたら、お手数ですが別途資料添付、送付でも結構です。別途資料に記載されている項目は記入いただかなくても結構です。

■収支状況

年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
総収入			
うち旅客収入			
うち貨物収入			
うち営業収入			
その他			
総費用			
うち燃料費			
うち船員費			
うち修繕費			
うち船舶減価償却費			
うち船舶の用船料			
うち航路付属施設費			
うち一般管理費			
その他			
損益計			

問3. 御社の船員（航路運航に直接従事される方）の平均年齢は何歳ですか。

歳

図 1.7 アンケート調査票：観光を主とした航路(2)

問4. 御社の国・都道府県または市町村からの支援（補助金）状況について、航路毎に平成21年度～23年度の3箇年分をご記入ください。

また、支援（補助金）の多少に関わらず、ご記入ください。

*（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構との船舶共有建造は除きます。

*現在使用されている船舶の購入等で補助金を受けた場合は、補助の概要がわかる資料を添付してください。

対象航路	支援者	平成21年度	平成22年度	平成23年度	補助の種類
	国	千円	千円	千円	
	都道府県	千円	千円	千円	
	市町村	千円	千円	千円	
	国	千円	千円	千円	
	都道府県	千円	千円	千円	
	市町村	千円	千円	千円	
	国	千円	千円	千円	
	都道府県	千円	千円	千円	
	市町村	千円	千円	千円	

問5. 御社の運航する航路維持における経営面での課題に対しての御社の取組状況についてお伺いします。

運航する航路維持における経営面での課題への対策として、取組を実施しましたか。

1. 取り組んだ	⇒問5-2（次のページ）へ
2. 現在取り組んでいる	
3. 取り組む予定	
4. 取り組みたいができない	⇒問5-1へ
5. 取り組み予定なし	

問5-1. 問5で4または5と答えた方にお伺いします。

これまで取組を実施していない、またはできない理由は何ですか。

1. 費用面	2. 人手不足
3. 効果が期待できない	4. 方法・やり方がわからない
5. 特に問題・課題がない	6. その他（ ）

⇒問6へお進み下さい。

図 1.8 アンケート調査票：観光を主とした航路(3)

問5-2. 問5で1・2・3と答えた方にお伺いします。

以下の項目について教えてください。

※取組を実施した航路について1航路1枚とし、適宜コピーしてください。

※具体的な取組内容等で参考資料がございましたら、添付をお願いします。

対象航路		
取組名		
課題		1. コスト削減（運航面・管理面） 2. 航路の利用促進（旅客・貨物） 3. その他（ ）
取組に至る背景	詳細分類	1. 社会情勢の変化（定住人口の減少、少子高齢化、景気の低迷 等） 2. 交通環境の変化（競合交通機関の新設、高速道路施策の実施 等） 3. その他（ ）
	背景詳細	例）離島の常住人口が減少した、高速道路の料金割引が大きい など
取組の内容	詳細分類 （問5で3と回答された方は、予定している内容を記述してください）	1. 航路再編・ルート見直し 2. ダイヤ変更 3. 現在の観光客へのサービス向上（情報提供・PRの工夫、乗継改善） 4. 新たな利用の促進（観光客誘致の工夫、貨物輸送増加の工夫） 5. コスト削減 6. 運賃割引（高齢者割引、その他） 7. 水上交通事業者に代わり地方公共団体が船舶の代替建造を行い所有 8. 地方公共団体が船舶の買収を行い所有する 9. 水上交通事業者が効率化船舶への代替建造を行う 10. 「海上交通低炭素化促進事業」、「海上交通バリアフリー化施設整備助成事業」等の活用事例 11. その他（ ）
	取組の詳細	例）1日の運航回数を○便から○便へ増加。運賃等を○円から○円に値下げ など
	実施までの問題点・苦労点	
	取組の評価	1. 大きな効果あり 2. 少し効果あり 3. あまり効果なし 4. ほとんど効果なし 5. まだわからない
	今後の方針	

図 1.9 アンケート調査票：観光を主とした航路(4)

問6．現在の状況についてお伺いします。

問6－1．前述の運航する航路維持における経営面での課題以外で現在、悩んでいることはありますか。

例）船員確保維持、安全管理体制維持 など

問6－2．国や自治体に対して提案や要望はありますか。

例）補助対象の範囲、補助申請の手続き、ターミナルの整備、アクセス道路の充実 など

問7．その他に何かございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

図 1.10 アンケート調査票：観光を主とした航路(5)

(3) 配布回収状況

調査票の配布回収状況を表 1.3 に示す。

表 1.3 調査票の配布回収状況

航路分類		事業者ベース			航路ベース		
		配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
生活航路	離島航路	11	5	45%	14	7	50%
	連絡航路	9	5	56%	16	5	31%
フェリー	短中距離	2	2	100%	2	2	100%
	長距離	3	3	100%	4	4	100%
観光を主とした航路		54	37	69%	77	56	72%
計		64	44	69%	113	74	65%

(4) 集計結果

調査票の集計結果を以下に示す。

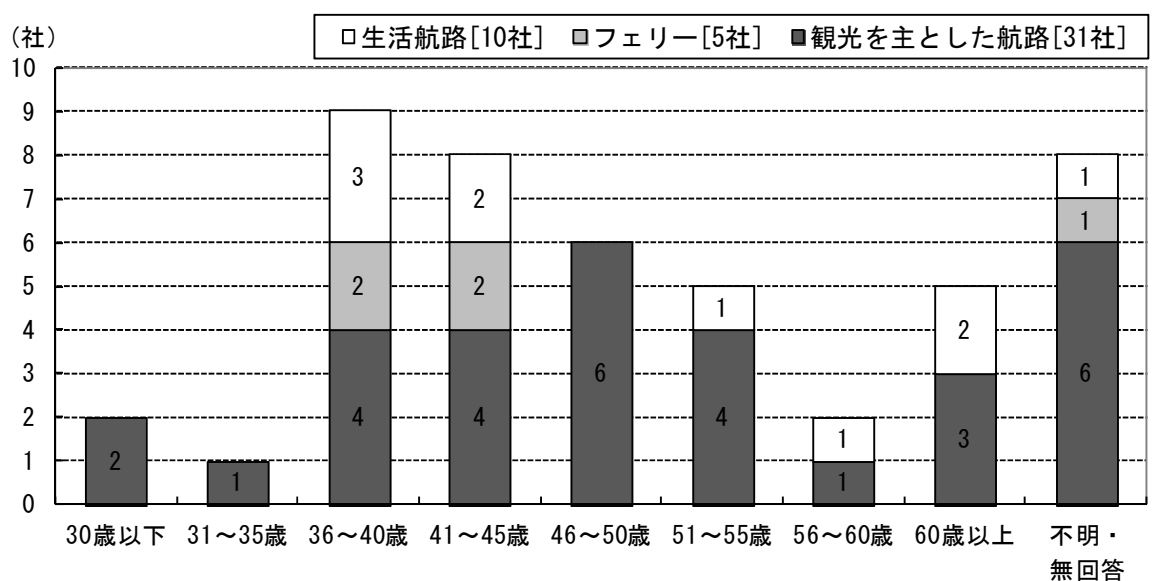
問 1. はじめに御社名、ご担当者名、ご連絡先をご記入ください。

社名は水上交通の概要整理に示す。

問 2. 御社が運航する航路の運賃および収支状況（観光船全体の収支状況）について、平成 21 年度～23 年度の 3 箇年分を空欄部分のみご記入ください。

水上交通の概要整理に示す。

問 3. 御社の船員（航路運航に直接従事される方）の平均年齢は何歳ですか。

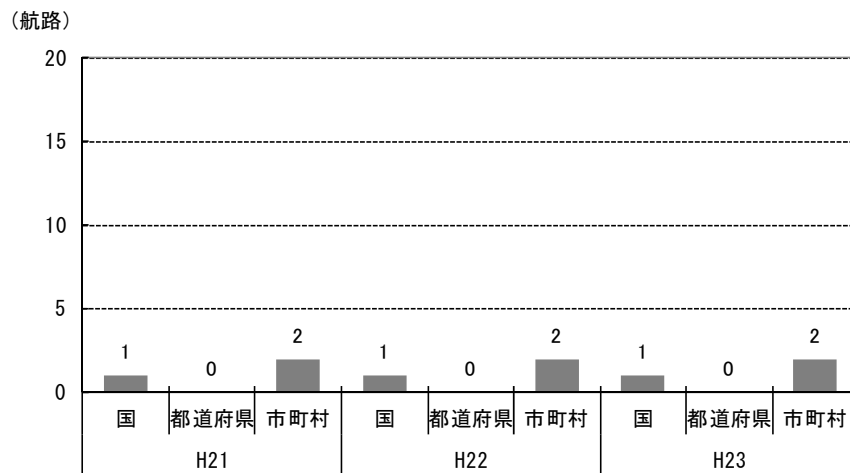


※グラフ中の数字は事業者数

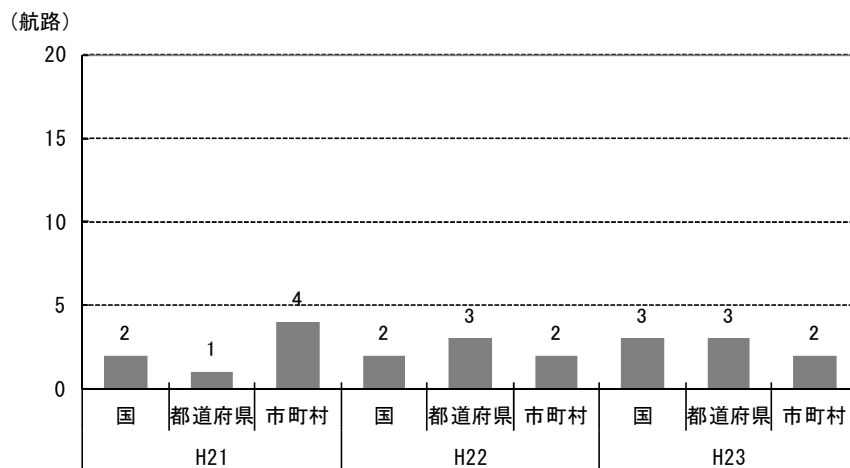
図 1.11 船員の平均年齢

問4. 御社の国・都道府県または市町村からの支援（補助金）状況について、航路毎に平成21年度～23年度の3箇年分をご記入ください。また、支援（補助金）の多少に関わらず、ご記入ください。

〔生活航路：12〕



〔フェリー：6〕



〔観光を主とした航路：56〕

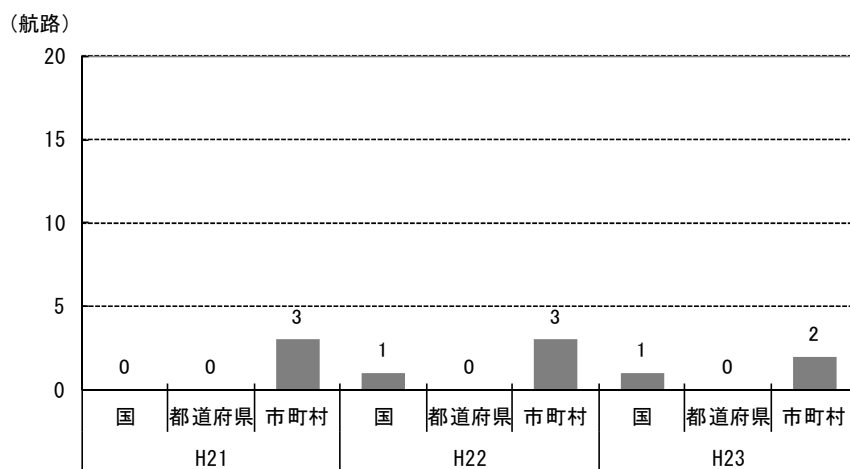


図 1.12 補助金(支援)の状況

問5. 御社の運航する航路維持における経営面での課題に対しての御社の取組状況についてお伺いします。

運航する航路維持における経営面での課題への対策として、取組を実施しましたか。

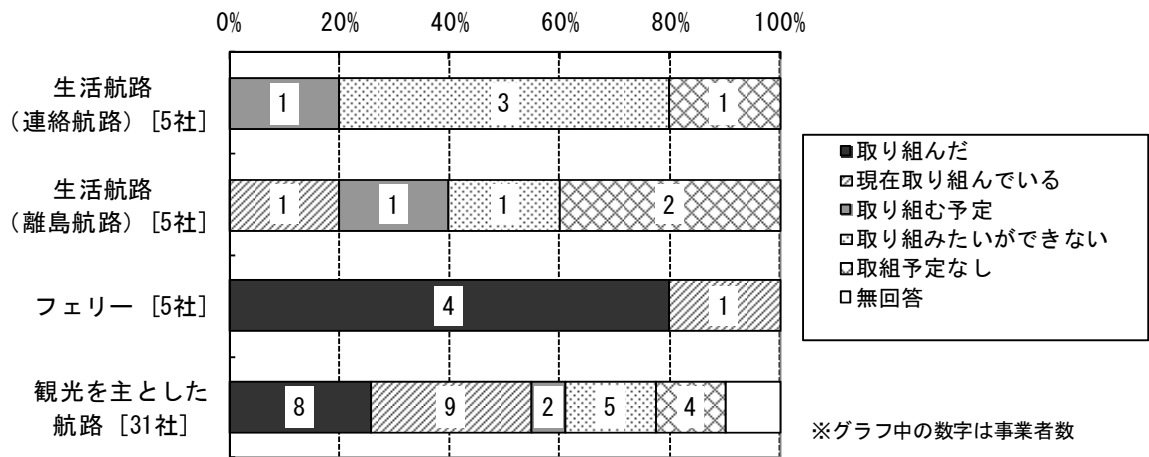


図 1.13 取組の実施

問5-1. 問5で4または5と答えた方にお伺いします。

これまで取組を実施していない、またはできない理由は何ですか。

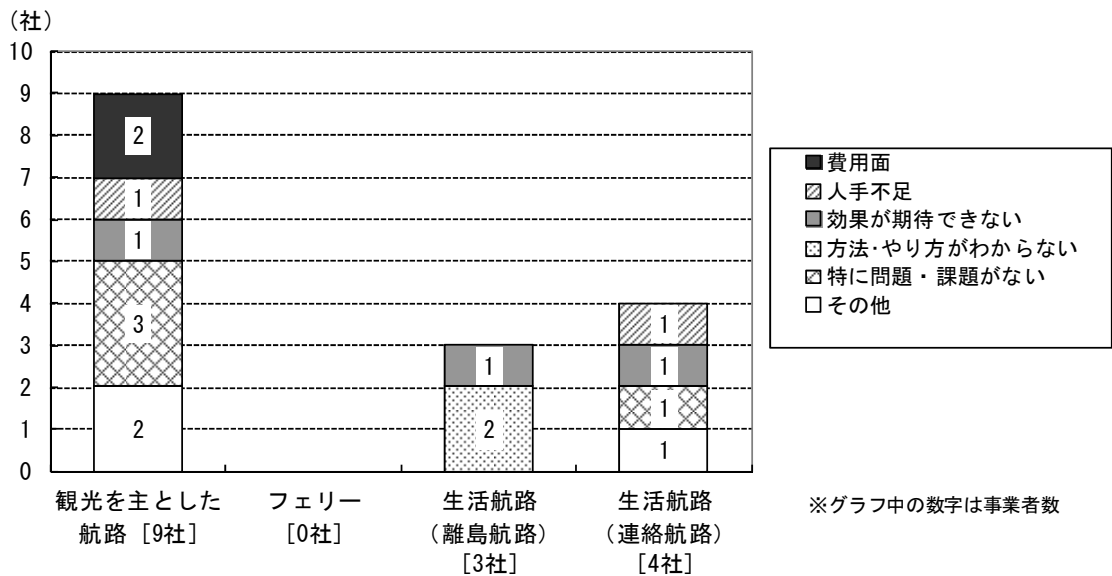


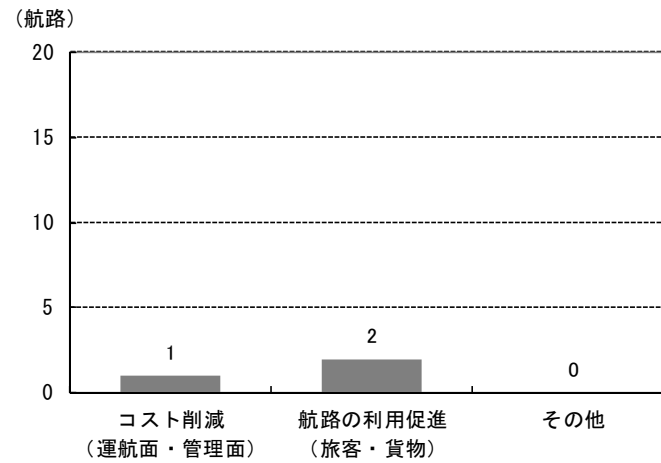
図 1.14 取組を実施していない理由

問5で1・2・3と答えた方にお伺いします。

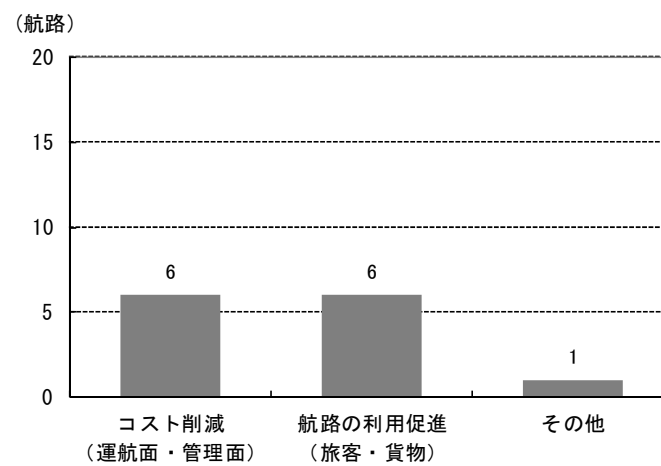
問5－2. 以下の項目について教えてください。

○取組への課題

〔生活航路〕



〔フェリー〕



〔観光を主とした航路〕

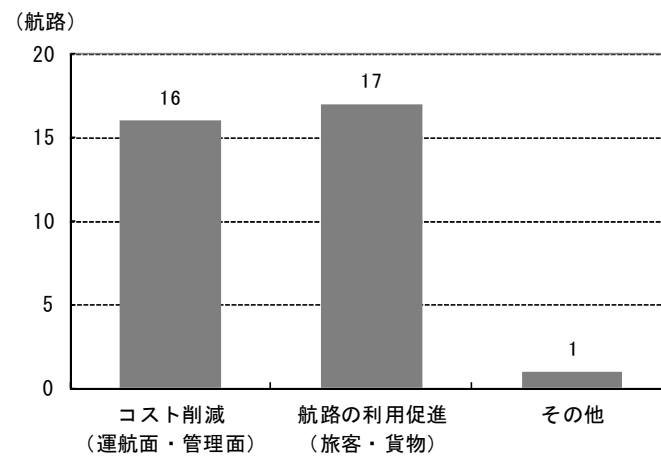
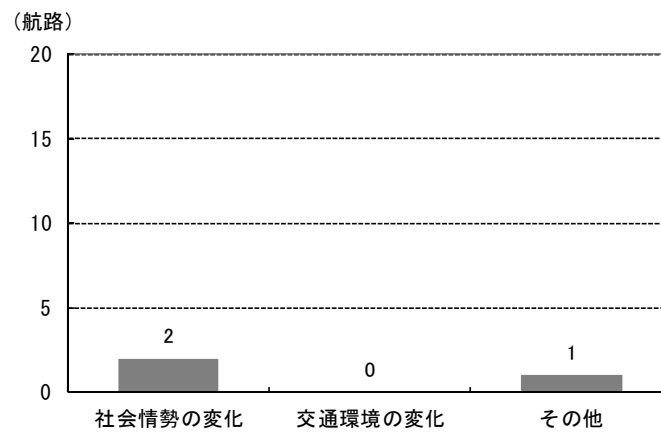


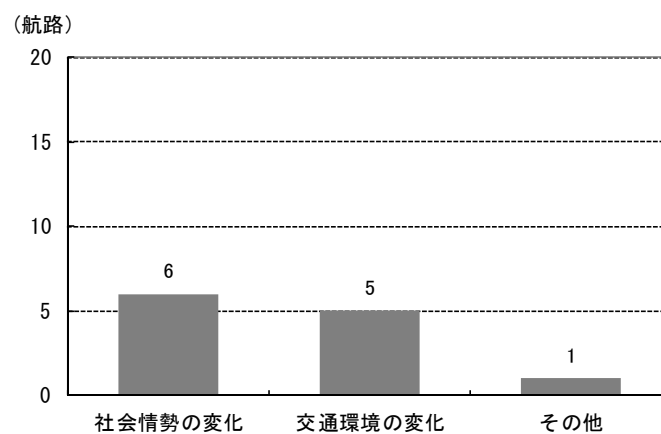
図 1.15 取組への課題

○取組に至る背景

〔生活航路〕



〔フェリー〕



〔観光を主とした航路〕

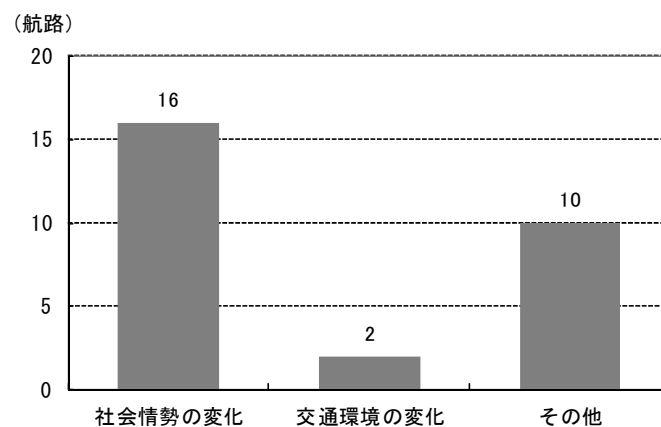
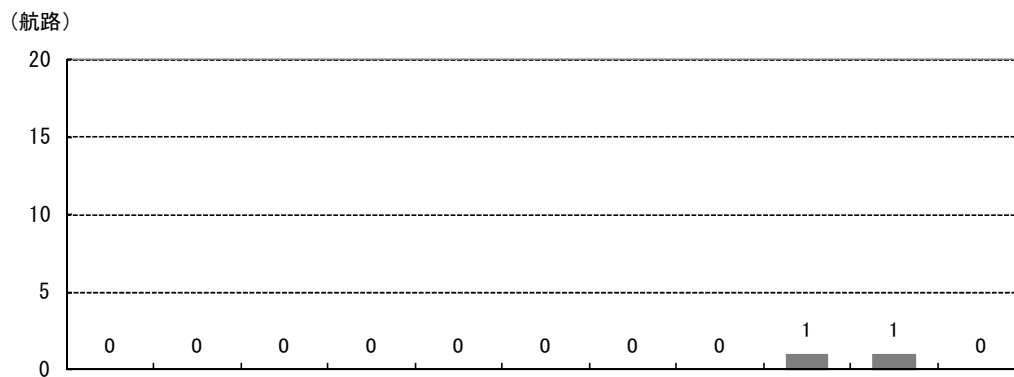


図 1.16 取組に至る背景

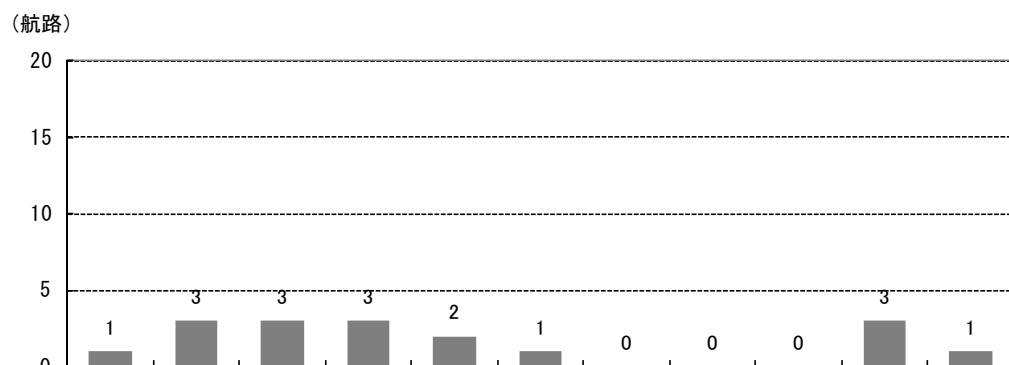
※社会情勢の変化：(定住人口の減少、少子高齢化、景気の低迷 等)
 交通環境の変化：競合交通機関の新設、高速道路施策の実施 等

○取組の内容

〔生活航路〕



〔フェリー〕



〔観光を主とした航路〕

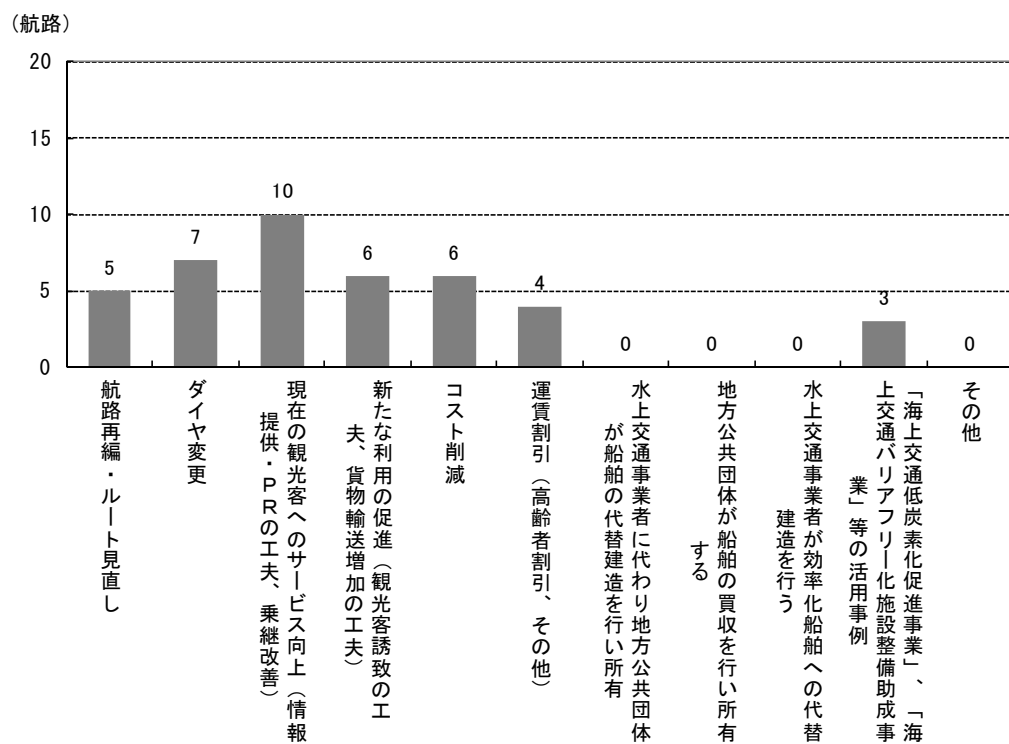


図 1.17 取組の内容

(5) 調査結果

アンケート調査から得られた結果を航路分類別に整理すると以下の通りである。(表にて整理したものを表 1.4～表 1.6 に示す。)

○ 生活航路

- ・ 航路の支援状況は、ほとんどの航路が支援を受けたことがない。支援を受けている航路は、国による離島航路補助金のみである。
- ・ 航路の維持や利用促進に向けた取り組みの状況は「取り組みたいができない」「取り組む予定なし」が半数以上を占め、その理由として「効果が期待できない」「方法・やり方がわからない」である。
- ・ 経営面での課題以外の悩みは、船員確保がある。
- ・ 国や自治体に対しての提案や要望は、補助対象の拡大や港湾設備の整備がある。

○ フェリー

- ・ 航路の支援状況は、ほとんどの航路が支援を受けたことがある。支援を受けている航路は、国（海上交通低炭素化促進事業、地域公共交通活性化・再生総合事業）や府県（地域活性化事業）、市町村（二酸化炭素削減補助）等、様々である。
- ・ 航路の維持や利用促進に向けた取り組みの状況は「取り組んだ」あるいは「現在取り組んでいる」がほとんどを占める。
- ・ 課題としては、コスト削減及び航路の利用促進を抱えている。
- ・ 取り組みに至る背景は、人口の減少や景気の低迷等の社会情勢の変化や、高速道路施策の実施等の交通環境の変化がある。
- ・ 取り組み内容は、減便等のダイヤ変更、船内サービスや運賃の改定等の現在の利用者へのサービス向上、PR の強化や魅力ある商品の提供等の新たな利用の促進がある。
- ・ 経営面での課題以外の悩みは、船員確保や船のリプレイスがある。
- ・ 国や自治体に対しての提案や要望は、港湾使用料等の引き下げや船舶改修・公租公課等の支援、港湾施設のリニューアルがある。

○ 観光を主とした航路

- ・ 航路の支援状況は、ほとんどの航路が支援を受けたことがない。支援を受けている航路は、国による海上交通低炭素化促進事業、地域公共交通活性化・再生総合事業である。
- ・ 航路の維持や利用促進に向けた取り組みの状況は「取り組んだ」あるいは「現在取り組んでいる」が 6 割を占めるものの、「取り組みたいができない」「取り組む予定なし」が 4 割を占める。
- ・ 取り組みをしない主な理由として「特に問題・課題がない」「費用面・人手不足」がある。
- ・ 取り組みを実施している課題としては、コスト削減及び航路の利用促進を抱えている。
- ・ 取り組みに至る背景は、人口の減少や景気の低迷等の社会情勢の変化がある。
- ・ 取り組み内容は、減便等のダイヤ変更、船内サービスや運賃の改定等の現在の利用者へのサービス向上、PR の強化や魅力ある商品の提供等の新たな利用の促進がある。

- ・ 経営面での課題以外の悩みは、船員確保や船のリプレイスがある。
- ・ 国や自治体に対しての提案や要望は、港湾使用料等の引き下げや船舶改修・公租公課等の支援、港湾施設のリニューアルがある。

表 1.4 アンケート調査結果(生活航路)

項目	アンケート結果	
航路の支援状況	支援の有無	・ほとんどの航路が支援を受けたことがない
	国からの支援	・離島航路補助金
	府県からの支援	—
	市町村からの支援	—
航路維持や利用促進に向けた取組の状況	実施状況	・取り組みたいができない、取り組む予定なしが半数以上
	取組をしない主な理由	・効果が期待できない ・方法・やり方がわからない
経営面での課題以外の悩み	・船員確保	
国や自治体に対しての提案や要望	・補助対象の拡大 ・港湾施設の整備	

表 1.5 アンケート調査結果(フェリー)

項目	アンケート結果	
航路の支援状況	支援の有無	・ほとんどの事業者が支援を受けたことがある
	国からの支援	・海上交通低炭素化促進事業 ・地域公共交通活性化・再生総合事業
	府県からの支援	・地域活性化事業 ・乗用車・トラック利用促進補助
	市町村からの支援	・二酸化炭素削減補助
航路維持や利用促進に向けた取組の状況	実施状況	・取り組んだ、あるいは現在取り組んでいる事業者がほとんど
	課題	・コスト削減 ・航路の利用促進
	取組に至る背景	・社会情勢の変化 ・交通環境の変化
	主な取組内容	・ダイヤ変更 ・現在の利用者へのサービス向上 ・新たな利用の促進
	取組の評価	・効果があったとの意見が多い
経営面での課題以外の悩み	・船員確保 ・船のリプレイス	
国や自治体に対しての提案や要望	・港湾使用料等の引き下げ ・船舶改修、公租公課等の支援 ・港湾施設のリニューアル	

表 1.6 アンケート調査結果(観光を主とした航路)

項目	アンケート結果	
航路の支援状況	支援の有無	・ほとんどの事業者が支援を受けたことがない
	国からの支援	・海上交通低炭素化促進事業 ・地域公共交通活性化・再生総合事業
	府県からの支援	－
	市町村からの支援	－
航路維持や 利用促進に向けた 取組の状況	実施状況	・取り組んだ、あるいは現在取り組んでいる、取り組む予定が 6 割 ・取り組みたいができない、取り組む予定なしが 4 割
	取組をしない 主な理由	・特に問題・課題がない ・費用面・人手不足
	課題	・コスト削減 ・航路の利用促進
	取組に至る背景	・社会情勢の変化
	主な取組内容	・現在の利用者へのサービス向上 ・ダイヤ変更 ・新たな利用の促進 ・コスト削減
	取組の評価	・効果があったとの意見が多い
経営面での課題以外の悩み	・船員確保 ・船のリプレイス	
国や自治体に対しての提案や要望	・港湾使用料等の引き下げ ・法規制及び書類申請の緩和 ・港湾施設及び港湾周辺の整備	

2 水上交通事業者ヒアリング調査

(1) 調査概要

水上交通事業者アンケート調査のうち、航路維持や利用促進に向けた特徴的な取り組みを行った、あるいは取り組みにより問題が解消した事業者を対象に、さらなる詳細を収集するために、ヒアリング調査を実施した。調査概要を表 2.1 に示す。また、抽出したヒアリング事業者の概要を表 2.2 に示す。ヒアリングの詳細については第 4 章で示す。

表 2.1 調査概要

項目	詳細
ヒアリング内容	・実施した利用促進策について ・周辺の観光地や観光施設等、他の機関との連携について ・PR 方法について ・観光客とのコミュニケーションについて ・今後の取組方針について
実施日	2/4 早駒運輸(株)、(株)フェリーさんふらわあ 2/7 丹後海陸交通(株) 2/8 南海フェリー(株)

表 2.2 ヒアリング事業者一覧

事業者	調査対象航路	運航本数	所要時間
(株)フェリー さんふらわあ	大阪別府航路	1 便/日	約 12 時間
	大阪志布志航路	1 便/日	約 15 時間
南海フェリー(株)	和歌山～徳島	8 便/日	約 2 時間
丹後海陸交通(株)	湾内	平 17 休 24 便/日	約 10 分
	宮津湾周遊（黒崎コース）	未定	—
	宮津湾周遊（天橋立コース）	未定	—
	伊根湾めぐり	未定	—
早駒運輸(株)	中突堤～HAT 神戸	？	？
	中突堤起点神戸港沖周遊	最大 5 便/日	約 1 時間
	中突堤起点兵庫運河周遊		

(2) ヒアリングシート

水上交通事業者を対象にヒアリングを実施する際に、ヒアリングシートを作成し、事前送信した。ヒアリングシートを次ページに示す。

近畿圏における水上交通の現状と課題把握に関する調査

事業者ヒアリング項目

■問1 実施した利用促進策について

貴社では、利用促進策として、〇〇をされたとのことですが、いままでの相違点、イベントを実施するまでの配慮点・工夫点、実施までの問題点・苦労点について教えてください。

■問2 周辺の観光地や観光施設等、他の機関との連携について

貴社では、利用促進策を推進するために、周辺の観光地や観光施設、交通機関等、他の機関との連携はされていますか。連携されている場合は、その内容と役割分担を教えてください。連携されていない場合は、その理由を教えてください。

- セット券や企画乗車券の販売、宿泊施設でのチケットの販売
- 協議会等の開催による情報共有 など

■問3 PR方法について

貴社では、航路をより多くの観光客に知ってもらうために、どのようなことをされていますか。また、どのようなことに工夫されていますか。

- 旅行会社への販促の実施
- 総合案内所でのパンフレットの設置、Web 上での最新情報の掲載など

■問4 観光客とのコミュニケーションについて

貴社では、観光客とのコミュニケーションを行うようにしていますか。行っている場合は、どのような方法で、どのような目的で行っているのか、また行う際の留意点について教えてください。行っていない場合は、その理由を教えてください。

- 従業員の接客、観光客からの問い合わせの対応方針など
- ご意見箱の設置、観光客を対象としたアンケートの実施など

■問5 今後の取組方針について

現在の利用促進策は、今後も継続されますか、それとも見直しされますか。また今後、利用促進策を推進するにあたって、どのような方針を検討されていますか。

図 2.1 事業者ヒアリング項目

(3) 調査結果

ヒアリング調査結果をもとに、事業者毎に利用促進策を進めていく上で設定されていると思われる実施方針及び実施されている利用促進策等を整理したものを表 2.3～表 2.6 に示す。

表 2.3 ヒアリング結果から得られた実施方針・利用促進策等((株)フェリーさんふらわあ)

	内容	詳細
実施方針	イメージの転換	・移動手段から船旅そのものを楽しんでもらう姿勢に転換、泊まることを全面に出す ・デメリットを逆手に取り、船の時間を楽しんでもらう方法の検討 ・客船としてのイメージの植え付け
	付加価値の付与	・顧客満足度をあげるために、すべてプロに任せる（コスト面を考慮し開催）
	他機関との連携	・2次交通との連携強化 ・自治体と連携した利用促進策の実施・
	ターゲットを絞ったPRの実施	・一般旅客の稼働率が30%であったことから、伸びしろの大きい一般客を対象とした利用促進策の実施 ・新規のセット商品の販売
	大規模なPRの実施	・インターネットの活用 ・インターネットを活用しない層へのPR
利用促進策	船内空間の改善	・客室の個室化
	イベントの開催	・プロによる演奏会の開催 ・星空教室や大道芸の開催 ・紙テープ投げイベントの開催
	新たな設備の導入	・Wi-Fiの導入
	質の高い食事の提供	・バイキング方式による食事の提供 ・フードコーディネーターの活用 ・季節メニューや地元の食材の提供
	わかりやすい料金の設定	・運賃・料金表の見直し
	他の施設でのチケット販売	・阪神電鉄の鉄道駅にてチケットの販売
	自治体と連携したPRの実施	・商業施設でのPR ・大学を対象とした合宿旅行のセミナーの実施 ・レンタカーの無料化、フェリー補助
	モニターの募集	・ペット連れのモニター募集
	インターネットでのPR	・スポンサーサイトの活用 ・イメージビデオをWebに掲載
	マスコミ・交通媒体を使ったPR	・新聞やチラシ、ポスターでのPR ・鉄道駅の広告板やバスを使ったPR
今後の課題	取組の継続	・いままで取り組んできた取り組みを継続
	LCCの参入	・新幹線よりも料金が低廉であるLCCとの競合
	船のリプレイス	・近年のパーソナル化等に対応した船内サービスの導入

表 2.4 ヒアリング結果から得られた実施方針・利用促進策等(南海フェリー(株))

	内容	詳細
実施方針	他機関との連携	・国及び県、市町村との連携 ・大学との連携 ・観光団体及び宿泊施設、商業施設との連携 ・交通機関との連携
	関連会社との連携	・南海電鉄との連携
	インパクトのある施策の実施	・利用者がお得感を感じる取り組みの実施 ・目を引く取り組みの実施
	利用客からの意見収集	・要望はできるかぎり対応
利用促進策	協議会への参加	・自治体等とともに航路の利用促進等の検討
	社会実験の実施	・1000 円フェリーの実施（期間中利用率 150％に）
	イベントの開催	・書道・将棋・合唱等のイベントの実施（評価は 2 分化（好評、不評）、2 時間では取り組みに限界）
	キャンペーンの実施	・自転車無料キャンペーンの実施（和歌山市の取り組みの一環、開始以降 4 割の利用増） ・乗船による周辺施設のクーポン券の特典
	他施設でのチケット販売・割引券等の配布	・宿泊施設や高速 S A、商業施設での割引券の配布 ・コンビニ（ローソン）でのチケット販売
	セット券の販売	・とくしま好きっぷ 2000 等の販売
	キャラクターの活用	・オリジナルアニメキャラクターの導入（マスコミによる PR、船にペイント）
	アンケート、意見箱の設置	・アンケートは毎月集計 ・自由意見を特に注視
	自治体と連携した PR の実施	・徳島県で印刷したセット券のポスターの掲示（南海電鉄の鉄道駅にて掲示） ・寄港地域での PR
今後の課題	高速道路の割引による利用者数の減少	・旅客船協会から国や県へ要望 ・ETC の深夜割引に対する対抗策
	ソフト施策の実施	・運航本数の増加等は、フェリーの性格上困難 ・人員削減により 1 人当たりの業務量は増加
	キャラクターのさらなる活用	・人気アニメイベントの参加
	県全体での PR	・港から離れている市町村の理解希薄

表 2.5 ヒアリング結果から得られた実施方針・利用促進策等(丹後海陸交通(株))

	内容	詳細
実施方針	コスト削減	
	トレンドへの配慮	・片道を自転車・徒歩で移動
	他機関との連携	・宿泊施設との連携 ・交通機関との連携
	ターゲットを絞った PR の実施	・大阪中心部での PR の実施
	社内外での意見収集	・良いものは実現へ
利用促進策等	船舶の小型化	・すべての船舶を小型船へ
	船員の配置見直し	・船員を 1 名体制へ
	新たな設備の導入	・レンタサイクルの導入
	他の施設でのチケット販売・割引券等の配布	・宿泊施設でのパンフレットの設置 ・KTR の鉄道駅にて鉄道とのセット券の販売
	鉄道駅等での PR	・主要鉄道駅での大規模な PR ・車内での PR
	キャラクターの活用	・ゆるキャラ（かさぼう）の導入
	社内提案制度の導入	・オリジナルグッズの提案 ・ラッピングバスの提案
今後の課題	地域間の連携	・現在、各地域で取り組みを実施 ・周辺施設と一体となった PR の実施 ・関係機関との役割分担（レンタサイクル事業からの撤退）
	定期ルートの見直し	・周遊ルートへの変更
	計画に対応した取組の実施	・海の京都構想に合わせ、由良～伊根間など舞鶴湾を横断する航路の検討

表 2.6 ヒアリング結果から得られた実施方針及び利用促進策等(早駒運輸(株))

	内容	詳細
実施方針	付加価値の付与	・ここでしか経験できないこと、ここでしか購入できないものの提供 ・乗船するということを特別な位置づけとするために演出を重視
	イメージの転換	・ガイドの説明を受けながら景色を眺めるという遊覧船から、違うジャンルとしてのイメージの転換
	他機関との連携	・周辺観光施設や宿泊施設、交通機関と連携 ・他機関とコミュニケーションするように心がけ
	お客さまと船員とのコミュニケーション強化	・船員の満足度向上のためのミーティングの開催 ・下船時のお客さまの表情の確認
	ターゲットを絞ったPRの実施	・神戸を中心としたPRの実施 ・口コミを活用したPRの実施
利用促進策	イベントの開催	・音楽イベントや持ち込みイベントの実施 ・船長体験
	写真サービスの実施	・お客さまと船員のコミュニケーションの一環
	セット券等の販売	・ポートタワーや観光博物館とのセット券の販売
	他施設でのチケット販売	・神戸市内のホテルでのチケット購入
	限定商品の販売	・浮環ストラップ、地元の洋菓子店のスイーツ販売
	インターネット ・SNSを活用したPR	・FaceBookを活用した情報提供
今後の課題	まちをあげての取組の実施	・行政の積極的な取り組みの実施 ・観光関係機関相互の連携の促進 ・臨海部に足を運んでもらえるしかけづくり（ウオーターフロント計画やアプローチづくり）
	法制度の見直し	・費用が軽減される法制度の見直し（乗船料にも影響）

3 離島航路事業者・自治体ヒアリング調査

(1) 調査概要

離島航路を運航している事業者及び離島航路の発着地の自治体を対象に、さらに情報を収集するために、ヒアリングを実施した。調査概要を表 2.7 に示す。

表 2.7 調査概要

項目	詳細
ヒアリング内容	・まちづくりや交通施策の中での離島航路の位置づけについて ・航路に対する支援の経緯、現状、今後の見通しについて ・行政機関（離島航路事業者）への要望について ・地域住民への利用促進等の働きかけ ・航路需要創出を目的とした交流人口拡大の取り組み
実施日	11/12 家島航路（高速いえしま、家島観光事業組合、坊勢汽船、姫路市） 11/13 沖島航路（近江八幡市） 11/19 沼島航路（沼島汽船、南あわじ市）

(2) ヒアリングシート

離島航路事業者及び自治体を対象にヒアリングを実施する際に、ヒアリングシートを作成し、事前に送信した。ヒアリングシートを次ページ以降に示す。

事業者ヒアリング項目

■問1 まちづくりや交通施策の中での離島航路の位置づけについて

貴社では、〇〇を結ぶ離島航路を運行されていますが、それら離島航路の存在は、貴社のイメージ形成や住民生活向上、産業振興など、まちづくりや交通施策の中でどのような位置づけがされていると思われますか？ また今後に向けて、どのような期待や展望をもたれていると思われますか？（※以下、本資料における離島航路とは、〇〇を結ぶ離島航路を指します。）

■問2 航路に対する支援の経緯、現状、今後の見通しについて

貴社では、離島航路を維持するために、資金や施設等に対する支援を受けていますか？ 支援を受けておられる場合は、それまでの経緯や課題、今後の展望について教えてください。

- 初期投資やランニングコストを支援するための補助金
- ターミナルの整備、ターミナルへのアクセス道路の整備、道案内の充実 など

■問3 行政機関への要望について

今後、離島航路を維持しつつ離島航路を活かしていくために、離島航路事業者の立場から、行政に対してどのような希望をお持ちでしょうか。

そして、利用者から貴社に対し要望がありますか。ありましたらその内容を教えてください。

■問4 離島航路事業者から地域住民への利用促進等の働きかけ

貴社では、離島航路の維持・存続、利用者の増大に向けて、地域住民を対象に取り組みを行われておりますでしょうか？ またその取り組みは、行政機関と連携して行われておりますでしょうか？ その現状と課題、今後の展望について教えてください。

- 市民・事業所への利用PR、キャンペーン
- 乗船料金の補助や施設使用料の低減 など

■問5 航路需要創出を目的とした交流人口拡大の取り組み

貴社では、離島航路の維持・存続、利用者の増大に向けて、地域住民以外を対象に取り組みを行われておりますでしょうか？ またその取り組みは、行政機関と連携して行われておりますでしょうか？ その現状と課題、今後の展望について教えてください。

- 観光の振興面（離島航路利用周遊コース開発、ターミナル周辺の観光資源発掘 等）
- 市民生活の維持向上面（災害時の離島航路活用、市内学校修学旅行での利用 等）

図 2.2 事業者ヒアリング項目

自治体ヒアリング項目

■問1 まちづくりや交通施策の中での離島航路の位置づけについて

貴市では、〇〇を結ぶ離島航路が運行されていますが、それら離島航路の存在は、貴市のイメージ形成や住民生活向上、産業振興など、まちづくりや交通施策の中でどのような位置づけをされていますでしょうか？ また今後に向けて、どのような期待や展望をお持ちでしょうか？（※以下、本資料における離島航路とは、〇〇を結ぶ離島航路を指します。）

■問2 航路に対する支援の経緯、現状、今後の見通しについて

貴市では、離島航路を維持するために、資金や施設等に対する支援を行われておりますでしょうか？ 支援をされていらっしゃる場合は、それまでの経緯や課題、今後の展望について教えてください。

- 初期投資やランニングコストを支援するための補助金
- ターミナルの整備、ターミナルへのアクセス道路の整備、道案内の充実 など

■問3 離島航路事業者、行政機関への要望について

今後、離島航路を維持しつつ貴市の振興に離島航路を活かしていくために、行政の立場から、また住民の立場から、離島航路事業者に対してどのような希望をお持ちでしょうか。

そして、住民より行政機関に対し要望がありますか。ありましたらその内容を教えてください。

■問4 自治体から地域住民への利用促進等の働きかけ

貴市では、離島航路の維持・存続、利用者の増大に向けて、地域住民を対象に取り組みを行われておりますでしょうか？ またその取り組みは、離島航路事業者と連携して行われておりますでしょうか？ その現状と課題、今後の展望について教えてください。

- 市民・事業所への利用PR、キャンペーン
- 乗船料金の補助や施設使用料の低減 など

■問5 航路需要創出を目的とした交流人口拡大の取り組み

貴市では、離島航路の維持・存続、利用者の増大に向けて、地域住民以外を対象に取り組みを行われておりますでしょうか？ またその取り組みは、離島航路事業者と連携して行われておりますでしょうか？ その現状と課題、今後の展望について教えてください。

- 観光の振興面（離島航路利用周遊コース開発、ターミナル周辺の観光資源発掘 等）
- 市民生活の維持向上面（災害時の離島航路活用、市内学校修学旅行での利用 等）

図 2.3 自治体ヒアリング項目

(3) 調査結果

ヒアリング調査から得られた結果を整理すると以下の通りである。また、離島航路別に整理したものを表 2.8～表 2.10 に示す。

○ 生活航路（離島航路）

- ・すべての航路において、島民利用の割合が高く、通学、自由目的の利用が多い。また、下船後にコミュニティバスとの接続がされている。
- ・需要創出のために、島が保有している観光資源を活かすとともに、レンタサイクルの導入や組合の活動等、取り組みが進められているところがある。このため、生活航路の観光客へのPRや宿泊施設の充実、観光に携わる人材の育成等の課題が生じている。
- ・一方で、そのような取り組みに対して関心が低いところや、観光客受入のためのインフラ整備や観光資源の不足、島民の生活への影響の懸念から、あえて観光PRをしないところもある。
- ・多くのところで港湾整備が求められている。港湾施設の整備状況により、利用者の変化が見られたところもある。
- ・船を維持するためには金銭的な負担が大きいため、バリアフリー化やリプレイス時の行政支援を求めているところもある。
- ・船員の高齢化の問題を抱えている事業者が多いものの、他船種の転職により、船員の新旧交代がうまく進んでいる事業者もある。

表 2.8 ヒアリング結果から得られた現状及び課題(家島～姫路港)

項目	現状	課題
船の利用状況等	・通学、業務（公共施設の建替）、自由目的の利用が多い ・港湾施設の整備状況により、利用動向が変化している ・コミュニティバス、レンタサイクル（家島）の導入	・港湾施設の整備 ・他地域でのレンタサイクルの導入
地域の観光の現状	・姫路城を中心としたPRの実施 ・宿泊施設がなく、日帰り観光が主となっている	・宿泊施設の充実
観光資源の現状	・観光利用は増加傾向 ・観光目的はワーキング、海水浴、釣り、祭り、オープンウォーター ・食べ物は坊勢サバ、じゃこ鍋 ・宿泊施設が少ない ・家島観光事業組合による活動	・宿泊施設の充実 ・観光資源を活用したPRの実施 ・セット券（船と食事・宿泊）の導入
観光における船の活用状況	・釣り目的の観光客は本土の水上交通事業者を利用	・観光目的での生活交通の活用
船の所有・施設の状況等	・中型船の維持困難 ・小型船の老朽化及びバリアフリー整備の困難 ・助成による船設備の整備 ・島により港湾施設の整備状況が異なる	・船のリプレイス、バリアフリー化での行政支援 ・港湾施設の整備
船員の確保	・船員の高齢化 ・ガット船や漁船の船員からの転職 ・島民の採用	・船員の確保 ・学校との連携
今後の取組	・家島では観光への取り組みが進んでいる ・観光案内人がいない（家島）	・地域間の連携 ・観光に携わる人材の教育
その他、要望	・人件費のコストダウンが難しい ・規制緩和による競合事業者の出現	・船員法、規制緩和の見直し ・事業者間の連携 ・港湾施設（駐車場）の整備

表 2.9 ヒアリング結果から得られた現状及び課題(沼島～土生・洲本港)

項目	現状	課題
島の状況	・居住人口の減少（半分は空き家） ・産業（漁業）の低迷	－
船の利用状況等	・通勤、通学、通院、自由目的の利用が多い ・朝、昼の便の利用多い ・下船後は自動車で移動 ・自動車を所有していない人はコミュニティバスを利用（乗換可能便数 6 便）	・セット券(船とコミュニティバス)の導入等
地域の観光の現状	・淡路島の観光資源が集積	・観光ルートの設定
観光資源の現状	・観光目的は釣り、海水浴、祭り ・食べ物はハモ ・宿泊施設が少ない ・ツアー実施による観光客の増加 ・ぬぼこの会の活動 ・題材的な PR はしていない	・観光資源を活用した PR の実施
観光における船の活用状況	・観光客利用は 4～5 割	－
船の所有・施設の状況等	・クレーンの撤廃による乗船人数の増加（1 隻のみ） ・事業者は公設民営での運航形態を希望しているが、行政は補助に限界を感じている	・関係機関との連携
船員の確保	・若年層の採用 ・島民の採用	－
今後の取組	・補助を受けていることにより、観光への取り組みがしにくい状況にある ・地域おこし協力隊の派遣による地域活性化	・関係機関との連携 ・観光や交流人口に係わる取り組みの実施
その他、要望	・協議会による補助申請	－

表 2.10 ヒアリング結果から得られた現状及び課題(沖島～堀切・長命寺)

項目	現状	課題
船の利用状況等	・ 居住者のほとんどが船を所有 ・ 燃料費の高騰による通船の利用 ・ 通勤、通学、通院、買い物等の目的の利用が多い ・ 沖島の小学校への通勤・通学は教育委員会が助成 ・ 通船とバスの乗継が良くない	・ 船とバスの乗継改善（交通機関の連携）
観光資源の現状・観光における船の活用状況	・ 生活の場であることから、題材的に PR せず ・ 過年度にイベントを開催 ・ 宿泊施設が少ない ・ 観光地化する場合、インフラ施設が整っていない	・ 観光振興推進の判断
船の所有・施設の状況等	・ 自治会による運営 ・ 自治会が船を所有 ・ 沖島港の浮き桟橋の修繕の要望あり ・ 街路灯の設置等、周辺施設の要望あり	・ 港湾施設及び周辺施設の整備
船員の確保	・ 船員の高齢化	・ 船員の確保
今後の取組	・ 沖島 21 世紀プランや住民の意向を取り入れた取り組みの実施	—
その他、要望	・ 沖島が離島振興法の対象外となっていたが、指定基準の見直しが進められている	・ 離島振興法の見直し

4 観光を主とした航路の利用者を対象としたアンケート調査の実施

(1) 調査概要

観光を主とした航路の利用者を対象に、利用者の基本属性や旅程内容、観光船に関する情報収集方法等を把握するために、アンケート調査を実施した。調査概要を表 4.1 に示す。

表 4.1 調査概要

項目	詳細
目的	○利用者の基本属性や旅程内容、観光船に関する情報収集方法等を把握するために、以下の3項目について調査する。 ・利用者の基本属性 ・旅程内容 ・観光船の情報収集方法、歓呼船の魅力・感想
対象航路 (5事業者)	・(株)神戸クルーザー(コンチェルト)＜神戸港＞ ・早駒運輸(株)(ファンタジー)＜神戸港＞ ・琵琶湖汽船(株) ・熊野交通(株) ・丹後海陸交通(株)
実施日	10/19～22 事業者にアンケートを郵送 11/12 回収〆切① 11/20 琵琶湖汽船・熊野交通にアンケートを再郵送 12/11 回収〆切②
配布・回収方法	乗車券購入時に配布／下船時に回収(船社にて配布回収)
配布数	＜神戸港＞各 600/計 1,200 (600×2) ＜その他＞各 400/計 1,200 (400×3)
回収数	＜神戸港＞各 300/計 600 (300×2) ＜その他＞各 200/計 600 (200×3) ※回収率 50%を想定
調査票の形式	・見やすく、答えやすいように調査票はA4サイズとする。 ・乗船時に回答が済むように、設問数は必要最低限とする。

(2) アンケート調査票の設計

アンケート調査票を作成するにあたり、以下の項目を設けることとした。作成した調査票を次ページ以降に示す。

表 4.2 アンケート項目

設問項目	設問番号
お住まい、今回の旅行のタイプ、旅行の主な目的	問 1
利用した主な交通手段	問 2
訪問予定あるいは訪問済みの観光エリア	問 3
宿泊の有無、宿泊する場合の宿泊先	問 4
観光船の利用頻度	問 5
観光船の情報収集方法	問 6
観光船の魅力	問 7
観光船の感想	問 8
基本属性 (性別、年齢)	問 9

観光船についてのアンケートご協力をお願い

国土交通省神戸運輸監理部
(株)神戸クルーズ

日頃より国土交通行政にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。
この度、観光船をより多くの方に利用していただけるように、観光船についてのアンケートを実施しています。
お時間が限られる中とは思いますが、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

回答の方法：選択肢の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。
() には、具体的な内容をご記入ください。

問1. お住まい、今回の旅行のタイプ、旅行の主な目的について教えてください。

お住まい 都道府県名 () 市町村名 ()
旅行のタイプ (①団体旅行・ツアー ②個人旅行：家族・友人 () 名 ③ひとり旅)
旅行の主な目的 (①観光 ②食事 ③温泉 ④参詣 ⑤その他 ())

問2. 神戸に来られる際に利用した主な交通手段は何ですか。〔複数回答可〕

1. 飛行機 2. JR 3. その他私鉄 4. 市営交通（鉄道）
5. 観光バス 6. 路線バス 7. フェリー 8. その他 ()
9. 自家用車※ 10. レンタカー※ ※高速道路利用 (①利用した ②利用していない)

問3. 今回の観光において訪問予定あるいは訪問済みの観光エリアはどこですか。〔複数回答可〕

<神戸市内>
1. 三宮・元町〔南京町、生田神社 等〕 2. 北野・新神戸〔異人館、布引ハーブ園 等〕
3. 六甲山・摩耶山〔六甲ケーブル、六甲山牧場 等〕 4. 西北神〔神戸ウイナリー、フルツワラパーク 等〕
5. 須磨・舞子〔須磨海浜水族園、アトレットパーク 等〕 6. 灘・東灘〔灘五郷、人と防災未来センター 等〕
7. 有馬温泉〔太閤の湯殿館、金泉源 等〕 8. その他 ()
<神戸市外>
1. その他兵庫県 2. 大阪府 3. 京都府 4. その他 ()

問4. 今回の観光では宿泊しますか。〔宿泊先のみ複数回答可〕

1. はい () 泊 () 日
宿泊先 (①神戸市内 ②その他兵庫県 ③大阪府 ④京都府 ⑤その他 ())
2. いいえ

問5. 今回乗船された観光船ははじめて利用しましたか。

1. はい 2. いいえ () 回目、() 年ぶり

問6. 今回乗船された観光船について主にどのように知りましたか。

1. テレビ・雑誌 2. インターネット 3. パンフレット 4. 友人・知人
5. 以前から知っていた 6. その他 ()

問7. 今回乗船された観光船および訪れた神戸の魅力を教えてください。

観光船	
神戸	

問8. 今回乗船された観光船および訪れた神戸の感想を教えてください。

観光船	
神戸	

問9. ご自身について教えてください。

性別 (①男性 ②女性)
年齢 (①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上)

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。
※アンケートは回収箱に投函、あるいは観光船スタッフにお渡しください。

図 4.1 調査票(株)神戸クルーズ

観光船についてのアンケートご協力をお願い

国土交通省神戸運輸監理部
早駒運輸（株）

日頃より国土交通行政にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。
この度、観光船をより多くの方に利用していただけるように、観光船についてのアンケートを実施しています。
お時間が限られる中とは思いますが、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

回答の方法：選択肢の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。
() には、具体的な内容をご記入ください。

問1. お住まい、今回の旅行のタイプ、旅行の主な目的について教えてください。

お住まい 都道府県名 () 市町村名 ()
旅行のタイプ (①団体旅行・ツアー ②個人旅行：家族・友人 () 名 ③ひとり旅)
旅行の主な目的 (①観光 ②食事 ③温泉 ④参詣 ⑤その他 ())

問2. 神戸に来られる際に利用した主な交通手段は何ですか。〔複数回答可〕

1. 飛行機 2. JR 3. その他私鉄 4. 市営交通（鉄道）
5. 観光バス 6. 路線バス 7. フェリー 8. その他 ()
9. 自家用車※ 10. レンタカー※ ※高速道路利用 (①利用した ②利用していない)

問3. 今回の観光において訪問予定あるいは訪問済みの観光エリアはどこですか。〔複数回答可〕

<神戸市内>
1. 三宮・元町〔南京町、生田神社 等〕 2. 北野・新神戸〔異人館、布引ハーブ園 等〕
3. 六甲山・摩耶山〔六甲ケーブル、六甲山牧場 等〕 4. 西北神〔神戸ワイナリー、フルツワワーパーク 等〕
5. 須磨・舞子〔須磨海浜水族園、アトレットパーク 等〕 6. 灘・東灘〔灘五郷、人と防災未来センター 等〕
7. 有馬温泉〔太閤の湯殿館、金泉源 等〕 8. その他 ()
<神戸市外>
1. その他兵庫県 2. 大阪府 3. 京都府 4. その他 ()

問4. 今回の観光では宿泊しますか。〔宿泊先のみ複数回答可〕

1. はい () 泊 () 日
宿泊先 (①神戸市内 ②その他兵庫県 ③大阪府 ④京都府 ⑤その他 ())
2. いいえ

問5. 今回乗船された観光船ははじめて利用しましたか。

1. はい 2. いいえ () 回目、() 年ぶり

問6. 今回乗船された観光船について主にどのように知りましたか。

1. テレビ・雑誌 2. インターネット 3. パンフレット 4. 友人・知人
5. 以前から知っていた 6. その他 ()

問7. 今回乗船された観光船および訪れた神戸の魅力を教えてください。

観光船	
神戸	

問8. 今回乗船された観光船および訪れた神戸の感想を教えてください。

観光船	
神戸	

問9. ご自身について教えてください。

性別 (①男性 ②女性)
年齢 (①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上)

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。
※アンケートは回収箱に投函、あるいは観光船スタッフにお渡しください。

図 4.2 調査票(早駒運輸株)

観光船についてのアンケートご協力をお願い

国土交通省近畿運輸局
琵琶湖汽船（株）

日頃より国土交行政にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。
この度、観光船をより多くの方に利用していただけるように、観光船についてのアンケートを実施しています。
お時間が限られる中とは思いますが、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

回答の方法：選択肢の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。
() には、具体的な内容をご記入ください。

問1. お住まい、今回の旅行のタイプ、旅行の主な目的について教えてください。

お住まい 都道府県名 () 市町村名 ()
旅行のタイプ (①団体旅行・ツアー ②個人旅行：家族・友人 () 名 ③ひとり旅)
旅行の主な目的 (①観光 ②食事 ③温泉 ④参詣 ⑤その他 ())

問2. 琵琶湖に来られる際に利用した主な交通手段は何ですか。〔複数回答可〕

1. 飛行機 2. J R 3. その他私鉄 4. 市営交通（鉄道）
5. 観光バス 6. 路線バス 7. フェリー 8. その他 ()
9. 自家用車※ 10. レンタカー※ ※高速道路利用 (①利用した ②利用していない)

問3. 今回の観光において訪問予定あるいは訪問済みの観光エリアはどこですか。〔複数回答可〕

<滋賀県内>
1. 大津〔日吉大社、延暦寺、石山寺 等〕 2. 湖南〔琵琶湖博物館、佐川美術館 等〕
3. 甲賀〔陶芸の森、甲賀の里忍術村 等〕 4. 東近江〔日牟礼八幡宮、水郷めぐり 等〕
5. 湖東〔彦根城、多賀大社 等〕 6. その他 ()
<滋賀県外>
1. 京都府 2. 大阪府 3. その他 ()

問4. 今回の観光では宿泊しますか。〔宿泊先のみ複数回答可〕

1. はい () 泊 () 日
 宿泊先 (①大津市内 ②その他滋賀県 ③京都府 ④大阪府 ⑤その他 ())
2. いいえ

問5. 今回乗船された観光船ははじめて利用しましたか。

1. はい 2. いいえ () 回目、() 年ぶり

問6. 今回乗船された観光船について主にどのように知りましたか。

1. テレビ・雑誌 2. インターネット 3. パンフレット 4. 友人・知人
5. 以前から知っていた 6. その他 ()

問7. 今回乗船された観光船の魅力を教えてください。

問8. 今回乗船された観光船の感想を教えてください。

問9. ご自身について教えてください。

性別 (①男性 ②女性)
年齢 (①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上)

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。
※アンケートは回収箱に投函、あるいは観光船スタッフにお渡しください。

図 4.3 調査票(琵琶湖汽船株)

観光船についてのアンケートご協力をお願い

国土交通省近畿運輸局
熊野交通（株）

日頃より国土交通行政にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。
この度、観光船をより多くの方に利用していただけるように、観光船についてのアンケートを実施しています。
お時間が限られる中とは思いますが、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

回答の方法：選択肢の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。
() には、具体的な内容をご記入ください。

問1. お住まい、今回の旅行のタイプ、旅行の主な目的について教えてください。

お住まい 都道府県名 () 市町村名 ()
旅行のタイプ (①団体旅行・ツアー ②個人旅行：家族・友人 () 名 ③ひとり旅)
旅行の主な目的 (①観光 ②食事 ③温泉 ④参詣 ⑤その他 ())

問2. 湍峡に来られる際に利用した主な交通手段は何ですか。〔複数回答可〕

1. 飛行機 2. JR 3. その他私鉄 4. 市営交通（鉄道）
5. 観光バス 6. 路線バス 7. フェリー 8. その他 ()
9. 自家用車※ 10. レンタカー※ ※高速道路利用 (①利用した ②利用していない)

問3. 今回の観光において訪問予定あるいは訪問済みの観光エリアはどこですか。〔複数回答可〕

<三重県・和歌山県内>
1. 本宮〔熊野本宮大社、川湯温泉 等〕 2. 熊野〔鬼ヶ城、花の窟、布引の滝 等〕
3. 串本・古座・太地〔潮岬、橋杭岩 等〕 4. 那智勝浦〔熊野那智大社、勝浦温泉 等〕
5. 伊勢・志摩〔伊勢神宮・鳥羽水族館 等〕 6. 南紀白浜〔アドベンチャーワールド・円月島 等〕
7. その他 ()
<三重県・和歌山県外>
1. 奈良県 2. 大阪府 3. 愛知県 4. その他 ()

問4. 今回の観光では宿泊しますか。〔宿泊先のみ複数回答可〕

1. はい () 泊 () 日
宿泊先 (①新宮市内 ②その他三重県 ③和歌山県 ④奈良県 ⑤その他 ())
2. いいえ

問5. 今回乗船された観光船ははじめて利用しましたか。

1. はい 2. いいえ () 回目、() 年ぶり

問6. 今回乗船された観光船について主にどのように知りましたか。

1. テレビ・雑誌 2. インターネット 3. パンフレット 4. 友人・知人
5. 以前から知っていた 6. その他 ()

問7. 今回乗船された観光船の魅力を教えてください。

問8. 今回乗船された観光船の感想を教えてください。

問9. ご自身について教えてください。

性別 (①男性 ②女性)
年齢 (①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上)

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。
※アンケートは回収箱に投函、あるいは観光船スタッフにお渡しください。

図 4.4 調査票(熊野交通(株))

観光船についてのアンケートご協力をお願い

国土交通省近畿運輸局
丹後海陸交通（株）

日頃より国土交通行政にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。
この度、観光船をより多くの方に利用していただけるように、観光船についてのアンケートを実施しています。
お時間が限られる中とは思いますが、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

回答の方法：選択肢の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。
() には、具体的な内容をご記入ください。

問1. お住まい、今回の旅行のタイプ、旅行の主な目的について教えてください。

お住まい 都道府県名 () 市町村名 ()
旅行のタイプ (①団体旅行・ツアー ②個人旅行：家族・友人 () 名 ③ひとり旅)
旅行の主な目的 (①観光 ②食事 ③温泉 ④参詣 ⑤その他 ())

問2. 天橋立に来られる際に利用した主な交通手段は何ですか。〔複数回答可〕

1. 飛行機 2. J R 3. その他私鉄 4. 市営交通（鉄道）
5. 観光バス 6. 路線バス 7. フェリー 8. その他 ()
9. 自家用車※ 10. レンタカー※ ※高速道路利用 (①利用した ②利用していない)

問3. 今回の観光において訪問予定あるいは訪問済みの観光エリアはどこですか。〔複数回答可〕

<京都府北部・兵庫県北部>
1. 宮津〔智恩寺、傘松公園 等〕 2. 伊根〔伊根の船屋、伊根湾 等〕
3. 舞鶴〔赤れんが博物館、海軍記念館 等〕 4. 京丹後〔経ヶ崎灯台、琴引浜 等〕
5. 城崎〔外湯めぐり、マリンワールド 等〕 6. その他 ()
<京都府北部・兵庫県北部以外>
1. その他京都府 2. その他兵庫県 3. その他 ()

問4. 今回の観光では宿泊しますか。〔宿泊先のみ複数回答可〕

1. はい () 泊 () 日
 宿泊先 (①宮津市内 ②その他京都府 ③兵庫県 ④その他 ())
2. いいえ

問5. 今回乗船された観光船ははじめて利用しましたか。

1. はい 2. いいえ () 回目、() 年ぶり

問6. 今回乗船された観光船について主にどのように知りましたか。

1. テレビ・雑誌 2. インターネット 3. パンフレット 4. 友人・知人
5. 以前から知っていた 6. その他 ()

問7. 今回乗船された観光船の魅力を教えてください。

問8. 今回乗船された観光船の感想を教えてください。

問9. ご自身について教えてください。

性別 (①男性 ②女性)
年齢 (①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上)

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。
※アンケートは回収箱に投函、あるいは観光船スタッフにお渡しください。

図 4.5 調査票(丹後海陸交通株)

(3) 回収状況

調査票の回収状況を表 4.3 に示す。

表 4.3 調査票回収状況

対象航路	回収数
(株) 神戸クルーザー (コンチェルト) <神戸港>	301
早駒運輸 (株) (ファンタジー) <神戸港>	329
琵琶湖汽船 (株)	28
熊野交通 (株)	191
丹後海陸交通 (株)	188

(4) 調査結果

アンケート調査から得られた結果を整理すると以下の通りである。(事業者別に表にて整理したものを表 4.4～表 4.8 に示す。)

○ 観光を主とした航路

- ・ すべての航路において、近畿地方に居住する利用者の割合が高く、個人旅行（家族・友人）の割合が高い。
- ・ すべての航路において、初めて利用する人が8割以上を占める。
- ・ 利用する交通手段としては、J Rあるいは自家用車の割合が高い。
- ・ ほとんどの航路が宿泊客の割合が高く、航路周辺の観光エリアにて周遊・宿泊する。
- ・ 情報収集方法としては、ほとんどの航路においてインターネットが2割を占めるが、それ以外の情報収集方法は、航路によってばらつきが見られる。
- ・ 観光船の魅力として、景観（眺め、自然景観）をあげる人が多く、感想でも景観を挙げる人が多い。その他は、乗り心地の良さやスタッフの対応をあげる人も多い。

表 4.4 対象航路の概要及び調査結果((株)神戸クルーザー(コンチェルト))

概要	項目	詳細
概要	出港	・神戸港
	運航ダイヤ(1日あたり)	・「ランチクルーズ(1回)」「ディークルーズ(1回)」 「ディナークルーズ(2回)」 ・所要時間は2時間程度
	運航ルート	・神戸の町並み、造船所、和田岬、神戸空港、須磨アルプスの山々、明石海峡大橋、淡路島など大阪湾を一望できるクルージング
	その他	・乗船当日、乗船時からクルーズ中、雨が降り続けている場合、次回利用できる平日乗船券を配布
アンケート	結果	
項目	詳細	回答傾向
利用客の基本属性	性別	・「女性」5割、「男性」4割
	年齢	・「40代」でやや割合が低くなるものの、「20～60代」で2割ずつ
今回の旅行について	お住まい	・「近畿地方」が7割と大部分
	今回の旅行のタイプ	・「個人旅行：家族・友人」で9割
	同行者人数	・「2人」が半数以上
	旅行の主な目的	・「観光」が最も多く4割 ・次に「食事」が3割
	利用した主な交通手段	・「自家用車」が最も多く4割(42%)が利用 ・次に「JR」4割(38%)が利用
	観光エリア(神戸市内)	・「三宮・元町」が半数以上 ・次に「北野・新神戸」2割(22%) ・その次に「六甲山・摩耶山」2割(16%)が続く
	(神戸市外)	・「不明・無回答」が8割
	宿泊の有無	・「宿泊しない」が7割
	宿泊する場合の宿泊数	・「1泊」が7割
	宿泊する場合の宿泊地	・「神戸市内」が8割
観光船について	利用の有無	・「はじめて利用」が8割(自社アンケートでは7割)
	利用したことがある場合の利用回数	・「2回目」が6割 ・次に「3回目」「5回目以上」が1割
	利用したことがある場合の以前利用した年	・「不明・無回答」が4割 ・次に「2～5年ぶり」が3割
	観光船に関する情報収集方法	・「以前から知っていた」が3割 ・次に「友人・知人」「インターネット」が2割
	観光船の魅力	・「コンチェルト」83、「食事」27、「眺め(夜景含む)」27、「大きい・豪華・綺麗・おしゃれ・格好良い等」14
	観光船の感想	・「良かった・楽しかった」59、「美味しかった」40、「景色が良かった」28、「スタッフが良かった」19、「演奏が良かった」18、「また利用したい」14

表 4.5 対象航路の概要及び調査結果(早駒運輸(株)(ファンタジー))

概要	項目	詳細
概要	出港	・神戸港
	運航ダイヤ(1日あたり)	・5本 ※臨時便あり(最大4本) ・所要時間は45分
	運航ルート	・神戸の町並み、造船所、和田岬、神戸空港、須磨アルプスの山々、明石海峡大橋、淡路島など大阪湾を一望できるクルージング
	その他	・お得な乗車券(ポートタワー・海洋博物館入場券等とのセット券)を販売 ・スタッフがすべて女性
アンケート 結果		
項目	詳細	回答傾向
利用客の基本属性	性別	・「男性」5割、「女性」4割
	年齢	・「50代」を除く「20～60代」で2割ずつ
今回の旅行について	お住まい	・「近畿地方」が5割 ・次に「関東地方」「中部地方」1割
	今回の旅行のタイプ	・「個人旅行：家族・友人」で7割
	同行者人数	・「2人」が4割 ・「不明・無回答」も4割
	旅行の主な目的	・「観光」が最も多く6割
	利用した主な交通手段	・「JR」が最も多く5割が利用 ・次に「自家用車」が多く2割が利用
	観光エリア(神戸市内)	・「三宮・元町」が7割 ・次に「北野・新神戸」4割 ・その次に「六甲山・摩耶山」2割が続く
	(神戸市外)	・「不明・無回答」が8割
	宿泊の有無	・「宿泊する」が6割
	宿泊する場合の宿泊数	・「1泊」が6割
	宿泊する場合の宿泊地	・「神戸市内」が6割
観光船について	利用の有無	・「はじめて利用」が9割
	利用したことがある場合の利用回数	・「2回目」が5割 ・次に「3回目」「5回目以上」が1割
	利用したことがある場合の以前利用した年	・「不明・無回答」が5割 ・次に「2～5年ぶり」が3割
	観光船に関する情報収集方法	・「インターネット」が2割 ・それ以外の項目が1割ずつ
	観光船の魅力	・「ファンタジー」88、「都市景観(橋、町など)」21、「眺め」11、「海上・水上の心地よさ」10
	観光船の感想	・「良かった・楽しかった」41、「景色が良かった」32、「スタッフが良かった」24、「船が良かった」22

表 4.6 対象航路の概要及び調査結果(琵琶湖汽船(株))

概要	項目	詳細
概要	出港	・ 大津港
	運航ダイヤ(1日あたり)	・ 「ミシガンモーニング(1回)」「ミシガン 90(1回)」 「ミシガン 60(1回)」「ミシガンナイト(1回)」
	運航ルート	・ 琵琶湖の南湖を周遊、琵琶湖周辺を一望できるクルージング
	その他	・ 平日のグループ限定で湖の駅浜大津の特選和食膳とミシガンの乗船がセットになったお得なプランを販売 ・ 冬の関西1デypassにて「湖都・びわこチケット」をセット販売
アンケート	結果	
項目	詳細	回答傾向
利用客の基本属性	性別	・ 「女性」が6割
	年齢	・ 「60代以上」で8割
今回の旅行について	お住まい	・ 「近畿地方」が4割 ・ 次に「関東地方」が3割
	今回の旅行のタイプ	・ 「個人旅行：家族・友人」で6割 ・ 「団体旅行・ツアー」で4割
	同行者人数	・ 「2人」「6人以上」が3割ずつ
	旅行の主な目的	・ 「観光」が最も多く5割 ・ 次に「不明・無回答」が3割
	利用した主な交通手段	・ 「JR」を4割利用 ・ 「レンタカー」を3割が利用
	観光エリア(神戸市内)	・ 「不明・無回答」が4割 ・ 次に「その他」が2割(21%) ・ その次に「湖南」2割(18%)
	(神戸市外)	・ 「不明・無回答」が6割
	宿泊の有無	・ 「宿泊する」が9割
	宿泊する場合の宿泊数	・ 「1泊」が7割
	宿泊する場合の宿泊地	・ 「大津市内」が6割
観光船について	利用の有無	・ 「はじめて利用」が8割
	利用したことがある場合の利用回数	・ 「2回目」が半数
	利用したことがある場合の以前利用した年	・ 「不明・無回答」「2～5年ぶり」が3割ずつ
	観光船に関する情報収集方法	・ 「以前から知っていた」が4割
	観光船の魅力	・ 特になし
	観光船の感想	・ 特になし

表 4.7 対象航路の概要及び調査結果(熊野交通(株))

概要	項目	詳細
概要	出港	・ 志古乗船場
	運航ダイヤ(1日あたり)	・ 6本 ※3～11月は2本増 ・ 所要時間は2時間程度
	運航ルート	・ 国の文化財指定「特別名勝 天然記念物」である瀨 峡を一望
	その他	・ 鉄道駅から瀨峡までのアクセス交通と観光船のセッ トプランを販売 ・ インターネットの特別割引有り
アンケート 結果		
項目	詳細	回答傾向
利用客の 基本属性	性別	・ 「女性」5割、「男性」4割
	年齢	・ 「60代」で3割 ・ 「20代」「50代」で2割ずつ
今回の旅行 について	お住まい	・ 「近畿地方」が3割 ・ 次に「中部地方」「九州・沖縄地方」が2割
	今回の旅行のタイプ	・ 「個人旅行：家族・友人」で4割(43%) ・ 「団体旅行・ツアー」が4割(36%)
	同行者人数	・ 「6人以上」が4割
	旅行の主な目的	・ 「不明・無回答」が最も多く5割 ・ 次に「観光」が4割
	利用した 主な交通手段	・ 「観光バス」が最も多く3割(34%)が利用 ・ 次に「自家用車」3割(31%)が利用 ・ その次に「JR」3割(25%)が利用
	観光エリア (神戸市内)	・ 「本宮」が6割 ・ 次に「那智勝浦」5割
	(神戸市外)	・ 「不明・無回答」が9割
	宿泊の有無	・ 「宿泊する」が8割
	宿泊する場合の宿泊数	・ 「1泊」が8割
	宿泊する場合の宿泊地	・ 「和歌山県」が7割
観光船 について	利用の有無	・ 「はじめて利用」が8割
	利用したことがある場合 の利用回数	・ 「2回目」が7割 ・ 次に「3回目」が3割
	利用したことがある場合 の以前利用した年	・ 「11年～」が3割
	観光船に関する 情報収集方法	・ 「以前から知っていた」が2割 ・ 次に「その他」が2割
	観光船の魅力	・ 「自然景観」51、「スピード感」18
	観光船の感想	・ 「良かった・楽しかった」33、「景色が良かった」29、 「景色が見えにくかった」11

表 4.8 対象航路の概要及び調査結果(丹後海陸交通(株))

概要	項目	詳細
概要	出港	・天橋立・天橋、一の宮
	運航ダイヤ(1日あたり)	・平日 17 本 ・休日 24 本 ・所要時間は片道 12 分
	運航ルート	・宮津～文珠～府中間を運航する観光船・モーターボートは天橋立観光にはとても便利な海上交通となっている。 ・天橋立観光船は松並木で繋がる両岸の府中地区と文珠地区を 12 分でむすぶ。天橋立に沿って運航する観光船からは、天橋立の長さを実感することができる。また船に寄ってくるカモメにエサをあげるのも醍醐味のひとつ。
アンケート 結果		
項目	詳細	回答傾向
利用客の基本属性	性別	・「女性」5 割、「男性」3 割
	年齢	・「60 代」で 3 割 ・「70 代以上」で 2 割
今回の旅行について	お住まい	・「近畿地方」が 3 割 ・次に「関東地方」が 2 割
	今回の旅行のタイプ	・「個人旅行：家族・友人」で 9 割
	同行者人数	・「2 人」が 4 割
	旅行の主な目的	・「観光」が最も多く 5 割
	利用した主な交通手段	・「JR」が最も多く 6 割が利用 ・次に「自家用車」3 割が利用
	観光エリア(神戸市内)	・「宮津」が 6 割 ・次に「城崎」が 2 割
	(神戸市外)	・「不明・無回答」が 7 割
	宿泊の有無	・「宿泊する」が 8 割
	宿泊する場合の宿泊数	・「1 泊」が 7 割
	宿泊する場合の宿泊地	・「宮津市内」が半数
観光船について	利用の有無	・「はじめて利用」が 8 割
	利用したことがある場合の利用回数	・「3 回目」が 5 割 ・次に「2 回目」が 3 割
	利用したことがある場合の以前利用した年	・「不明・無回答」が 6 割
	観光船に関する情報収集方法	・「以前から知っていた」「パンフレット」「インターネット」が 2 割
	観光船の魅力	・「自然景観」35、「対岸への移動しやすさ」11
	観光船の感想	・「景色が良かった」25、「良かった・楽しかった」19、「安全運転だった・乗り心地が良かった」10

■ 国による支援措置策の整理

(1) 支援措置策の一覧

表 3.1 支援措置策

開始年度	名称	対象			
		港湾設備	船設備	運航費	その他
昭和 27 年 ～平成 22 年	離島航路補助金 (離島航路補助)			○	
昭和 27 年 ～平成 22 年	離島航路補助金 (離島航路構造改革補助)		○		○
昭和 27 年 ～平成 22 年	離島航路補助金 (バリアフリー化建造費補助)		○		
平成 13 年～	旅客船ターミナル等の 一体的なバリアフリー化事業	○			
平成 17 年～	港湾機能高度化施設整備補助金	○			
平成 20 年 ～平成 22 年	地域公共交通活性化・再生総合事業			○	○
平成 21 年～	海上交通低炭素化促進事業費補助金 (低炭素化改造等事業)		○		
平成 21 年 ～平成 22 年	海上交通低炭素化促進事業費補助金 (低炭素型中古船舶代替事業)		○		
平成 23 年～	地域公共交通確保維持改善事業	○	○	○	○

(2) 支援措置策の詳細

補助名	離島航路補助金（離島航路補助）	
概要	離島航路事業に関する国の特別の助成措置により、ナショナルミニマムとして、離島住民や住民の生活必需品や出荷品を輸送する上で不可欠な交通手段である離島航路の維持・改善を図り、離島住民の生活の安定に資する。	
内容	対象事業者	離島航路整備法に基づく国庫補助航路事業者
	対象事業	離島航路を運航した結果生ずる欠損
	対象経費	－
	補助率	実際の欠損額である「実績欠損額」と、全離島航路（補助対象外の経営の効率的な航路を含む）の平均値を基に算出した標準賃率・標準単価及び各航路の輸送実績により算定される「標準欠損額」とを比較し、いずれか少ない方の額について補助
	補助金額 （予算額 （国費））	・平成 16 年度百万円 ・平成 17 年度百万円 ・平成 18 年度百万円 ・平成 19 年度 3,823 百万円 ・平成 20 年度 3,816 百万円 ・平成 21 年度 4,051 百万円 ・平成 22 年度 4,051 百万円→地域公共交通確保維持改善事業へ
問合せ先	国土交通省海事局内航課	

補助名	離島航路補助金（離島航路構造改革補助）	
概要	離島航路事業に関する国の特別の助成措置により、ナショナルミニマムとして、離島住民や住民の生活必需品や出荷品を輸送する上で不可欠な交通手段である離島航路の維持・改善を図り、離島住民の生活の安定に資する。	
内容	対象事業者	離島航路整備法に基づく国庫補助航路事業者
	対象事業	離島の人口減少による輸送人員の減少等の結果欠損額が増加していることから、将来にわたる欠損額の増大を抑制するため、航路毎に離島航路事業者や国、関係地方公共団体のみならず財務会計や経営の専門家等を構成員とする「航路改善協議会」を設置し、経営診断をした上で、航路改善計画を策定し構造改革を行うこととしている。
	対象経費	－
	補助率	航路改善計画の策定経費（10/10）、同計画に基づき欠損額の増大抑制のために行う省エネ船への代替建造費や需要に合わせた小型船への代替建造費（1/10）、破綻懸念航路（債務超過は全体の約 6/10）の公設民営化のための船舶買取費・代替建造費（最大 3/10）
	補助金額 （予算額 （国費））	・平成 21 年度 750 百万円 ・平成 22 年度 720 百万円→地域公共交通確保維持改善事業へ
問合せ先	国土交通省海事局内航課	

補助名	離島航路補助金（バリアフリー化建造費補助）	
概要	離島における高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の利便性及び安全性の向上を図るため、離島航路に就航する船舶のバリアフリー化に係る工事費の一部を補助します。	
内容	対象事業者	離島航路整備法に基づく国庫補助航路事業者
	対象事業	国庫補助航路で使用する船舶のバリアフリー化を図る
	対象経費	バリアフリー化に係る工事費
	補助率	バリアフリー化に係る工事費の 50%以内
	補助金額 （予算額 （国費））	・平成 16 年度 76 百万円 ・平成 17 年度 43 百万円 ・平成 18 年度 20 百万円 ・平成 19 年度 11 百万円 ・平成 20 年度 11 百万円 ・平成 21・22 年度 → 地域公共交通確保維持改善事業へ
問合せ先	国土交通省海事局内航課	

補助名	旅客船ターミナル等の一体的なバリアフリー化事業	
概要	港を訪れた市民が、安全かつ身体的負担の少ない方法で、公共交通機関を利用できるよう、潮位に左右されにくい浮桟橋式の係留施設の整備や、車椅子が乗り入れ可能となるようにスロープ等の整備を推進します。	
内容	対象事業者	港湾管理者
	対象事業	A 補助対象施設・設備 施設：係留施設（バリアフリーに資する浮桟橋など）等 設備：係留施設等に整備する屋根付き通路、照明、スロープ、手摺り等 B 補助対象要件（基準） 港湾管理者が管理する一般公衆の利用に供する施設及び施設に付帯する設備
	対象経費	港湾の改修に係る経費
	補助率	・港湾法第 4 2 条及び第 4 3 条による。 ただし、北海道については「北海道開発のためにする港湾工事に関する法律」、沖縄については「沖縄振興開発特別措置法」、離島については「離島振興法」、奄美群島については「奄美群島振興開発特別措置法」による。 なお、統合補助金によるものについては、離島以外は、国 1/3、地方公共団体（港湾管理者） 2/3、離島は、国 1/2、地方公共団体（港湾管理者） 1/2。
	補助金額 （予算額 （国費））	・平成 16 年度 2,771 億円の内数 ・平成 17 年度 2,581 億円の内数 ・平成 18 年度 2,421 億円の内数 ・平成 19 年度 2,341 億円の内数 ・平成 20 年度 2,279 億円の内数
問合せ先	国土交通省港湾局計画課	

補助名	海上交通低炭素化促進事業費補助金（低炭素化改造等事業）	
概要	先進的な省エネ化の取組みを支援し、海上交通の低炭素化を促進することで、地域環境及び地球環境の保全を図るとともに、経済の活性化及び地域の活性化を図る。	
内容	対象事業者	船舶運航事業者、船舶貸渡業者及び内航海運業者
	対象事業	低燃費ディーゼル機関、低摩擦型船底塗料等
	対象経費	補助対象設備等の価格及び補助対象設備等の取付等をするために要する作業費用
	補助率	補助対象経費の 1/2 又は 1/3 ※補助対象経費の 1/2 又は 1/3 の額が百万円未満の場合、交付しない
	補助金額 （予算額 （国費））	平成 21 年度 第二次補正予算枠：約 40 億円 平成 23 年度当初予算枠：約 4.5 億円 平成 24 年 約 2.6 億円
問合せ先	国土交通省海事局内航課	

補助名	海上交通低炭素化促進事業費補助金（低炭素型中古船舶代替事業）	
概要	燃費の向上等を図り、もって地域環境及び地球環境の保全を図るとともに、船舶運航事業等の活性化による経済の活性化及び地域の活性化を図ることを目的とする。	
内容	対象事業者	船舶運航事業者、船舶貸渡業者及び内航海運業者
	対象事業	－
	対象経費	事業計画の代替船舶の売買予定価格から被代替船舶の売買予定価格を差し引いた額
	補助率	補助対象経費の 1/2 （補助対象経費の 1/2 の額が 25 百万円未満の場合は交付しない。100 百万円を超える場合は、100 百万以下とする。）
	補助金額 （予算額 （国費））	平成 21 年度第二次補正予算枠：約 10 億円 平成 22 年度 <終了>
問合せ先	国土交通省海事局内航課	

補助名	港湾機能高度化施設整備補助金	
概要	港湾施設の機能の高度化を図るために必要となる施設について、地方公共団体（港務局を含む）又は民間事業者が実施する事業に要する経費の一部を国が補助することにより、港湾の国際競争力の強化、物流の効率化、循環型社会の構築、港湾の保安、安全の向上、観光立国の実現を図る。	
内容	対象事業者	港湾管理者、地方公共団体が出資する法人
	対象事業	連絡通路、待合い施設等
	対象経費	－
	補助率	コンテナターミナルの 24 時間フルオープン支援施設、鉄道積替施設、内航フィーダー輸送強化支援施設、貨物積替円滑化支援施設〈各 1/3〉、ゲート前状況監視・偏載監視施設〈1/2〉、高能率貨物取扱支援施設〈1/3〉、バリアフリー対応旅客施設〈1/2〉、港湾観光交流支援基盤施設〈4/10〉、港湾保安・安全向上施設、地震に強い臨海部物流拠点〈各 1/2〉、循環資源取扱支援施設〈1/3〉
	補助金額 （予算額 （国費））	・平成 19 年度 668 百万円 ・平成 20 年度 1,209 百万円 ・平成 21 年度 5,130 百万円 ・平成 22 年度 370 百万円 ・平成 23 年度 548 百万円 ・平成 24 年度 1,306 万円 ・平成 25 年度 1,632 万円
問合せ先	国土交通省港湾局計画課	

補助名	地域公共交通活性化・再生総合事業	
概要	「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」を活用し、バス・乗合タクシー、鉄道、旅客船等の多様な地域公共交通の活性化・再生に取り組む地域の協議会に対し、パッケージで一括支援することにより、地域の創意工夫ある自主的な取り組みを促進する。	
内容	対象事業者	法定協議会
	対象事業	地域公共交通総合連携計画の策定、地域公共交通活性化・再生総合事業計画
	対象経費	○「地域公共交通総合連携計画」（法定計画）策定経費 定額 ○総合事業計画に定める事業に要する経費 ・実証運行（運航）1/2 ・実証運行（運航）以外の事業 1/2 （※） （※）政令市が設置する協議会の取り組む事業 1/3
	補助率	1 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条に規定する地域公共交通総合連携計画（法定計画）の策定調査に要する経費 定額 2 地域公共交通総合連携計画のうち協議会が実施する地域公共交通活性化・再生総合事業計画に定める事業に要する経費（実証運行 1/2 実証運行以外 1/2（政令市が設置する協議会が取り組むもの 1/3））
	補助金額 （予算額 （国費））	・平成20年度 3,000 百万円 ・平成21年度 4,400 百万円 ・平成22年度 4,020 百万円＜終了＞ →地域公共交通確保維持改善事業へ
問合せ先	国土交通省 総合政策局 公共交通政策部 交通計画課	
補助名	地域公共交通確保維持改善事業（地域公共交通確保維持事業）	
概要	存続が危機に瀕している生活交通のネットワークについて、地域のニーズを踏まえた最適な交通手段であるバス交通、デマンド交通（※）、離島航路・航空路の確保維持のため、地域の多様な関係者による議論を経た地域の交通に関する計画等に基づき実施される取り組みを支援	
内容	対象事業者	一般乗合旅客自動車運送事業者、自家用有償旅客運送者、離島航路事業者、航空運送事業者 等
	対象事業	・地域をまたがる幹線バス交通ネットワークの確保・維持 ・幹線交通ネットワークと密接な地域内のバス交通・デマンド交通等の確保・維持 ・離島の生活に必要な航路・航空路の確保・維持 等
	対象経費	－
	補助率	1/10, 1/2, 3/10
	補助金額 （予算額 （国費））	・平成23年度 30,530 百万円＜事業全体＞ ・平成24年度 30,578 百万円＜事業全体＞ ・平成25年度 31,078 百万円＜事業全体＞
問合せ先	国土交通省 総合政策局 公共交通政策部 交通支援課	

補助名	地域公共交通確保維持改善事業（地域公共交通バリア解消促進等事業）	
概要	・バス、タクシー、旅客船、鉄道駅、旅客ターミナルのバリアフリー化等を支援 ・地域鉄道の安全性向上に資する設備整備等を支援 ・バリアフリー化されたまちづくりの一環として、L R T、B R T、I Cカードの導入等公共交通の利用環境改善を支援	
内容	対象事業者	一般乗合旅客自動車運送事業者（路線定期運行を行う者に限る。）、一般乗用旅客自動車運送事業者、鉄軌道事業者、国内一般旅客定期航路事業を営む者、本邦航空運送事業者 等
	対象事業	・バス、タクシー、鉄道駅、旅客ターミナルのバリアフリー化等 ・地域鉄道の安全性向上に資する設備整備等 ・バリアフリー化されたまちづくりの一環として、L R T、B R T、I Cカードの導入等公共交通の利用環境改善
	対象経費	—
	補助率	1/2, 1/3, 1/4, 1/10
	補助金額 （予算額 （国費））	・平成 23 年度 30, 530 百万円＜事業全体＞ ・平成 24 年度 30, 578 百万円＜事業全体＞ ・平成 25 年度 31, 078 百万円＜事業全体＞
問合せ先	国土交通省 総合政策局 公共交通政策部 交通支援課	

補助名	地域公共交通確保維持改善事業（地域公共交通調査事業）	
概要	地域の公共交通の確保・維持・改善に資する調査の支援等	
内容	対象事業者	協議会
	対象事業	地域の公共交通の確保・維持・改善に資する調査
	対象経費	計画の策定に必要な経費（協議会開催島の事務費、地域のデータ収集・分析の費用、住民・利用者アンケートの実施費用、専門家の招聘費用、モビリティマネジメントの実施等地域住民への啓発事業の費用、短期間の実証調査のための費用等）
	補助率	定額（上限額 2,000 万円）
	補助金額 （予算額 （国費））	・平成 23 年度 30, 530 百万円＜事業全体＞ ・平成 24 年度 30, 578 百万円＜事業全体＞ ・平成 25 年度 31, 078 百万円＜事業全体＞
問合せ先	国土交通省 総合政策局 公共交通政策部 交通支援課	